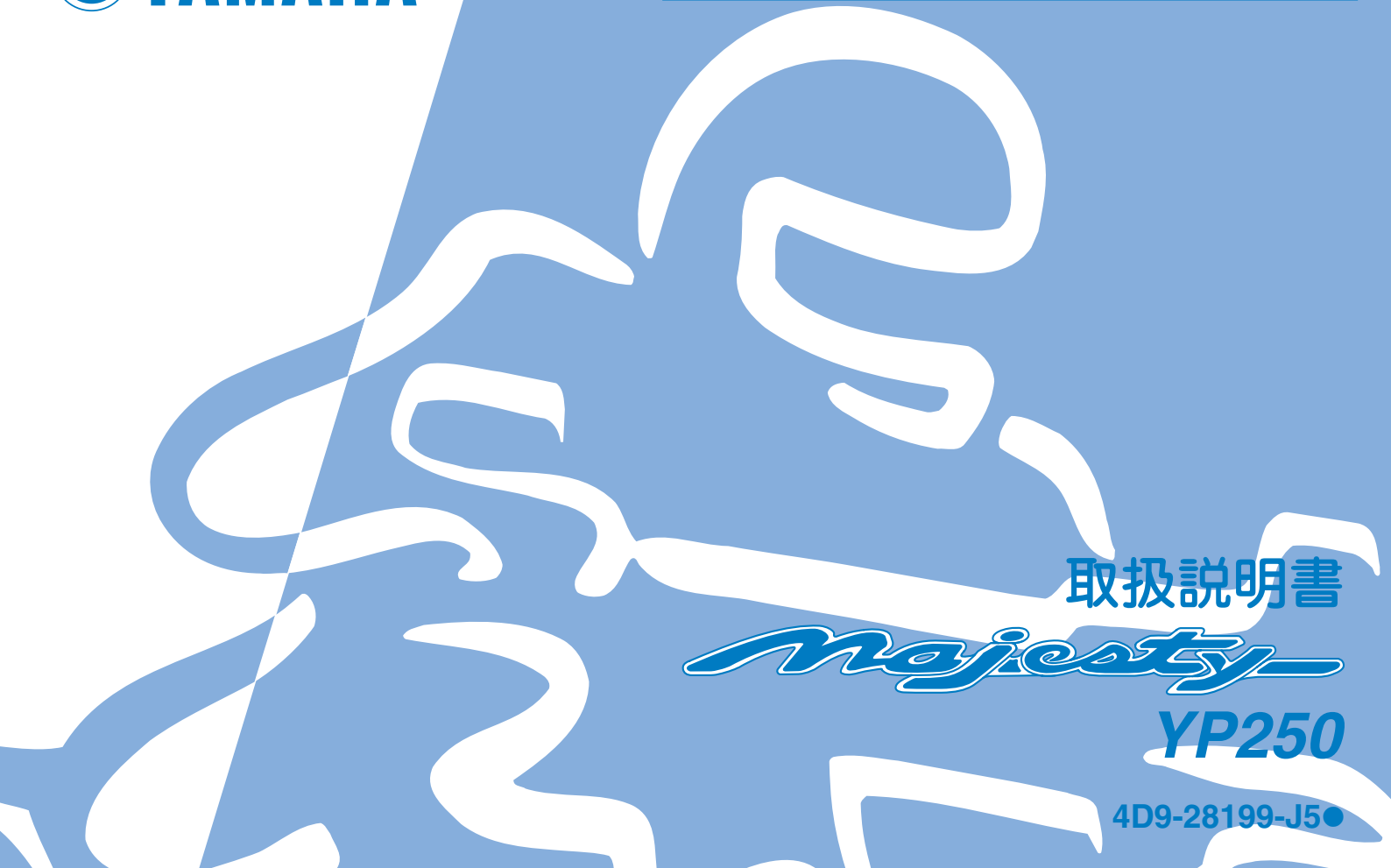
YAMAHA

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。



取扱説明書

Majesty

YP250

4D9-28199-J5●

JAU27263

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために ... 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

スマートキーシステム 3-1
- スマートキーシステムの概要 3-1
- スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い 3-2
- スマートキーの操作のしかた 3-4
- スマートキーの電池交換のしかた 3-5
- メカニカルキーの使いかた 3-6
- スマートキーシステムの作動範囲 3-7
- ハンドルロック解除と車の電源 ON 3-8
- 車の電源 OFF 3-10
- ハンドルロックのかけかた 3-10
- ハンドルロックだけを解除する 3-11
- シートの開閉 3-11
- フロントトランク A の開閉 3-14

各部の取り扱いと操作 4-1
- YCC-AT 制御モードの選択 4-1
- YCC-AT とトシフトシステムの作動 4-2
- 走行モードの切り替え 4-3
- 警告灯と表示灯 4-4
- スピードメーター 4-6
- タコメーター 4-6
- マルチファンクションディスプレイ 4-6
- 盗難警報器（オプション） 4-10
- ハンドルスイッチ 4-10
- リヤブレーキロックレバー 4-13
- フューエルタンクキャップ 4-13
- 燃料 4-15
- 書類入れ 4-15
- トランク 4-16
- リヤクッションの調整 4-17
- ブレーキレバーの握り調整 4-18
- スタンディングハンドル 4-19
- サイドスタンド 4-19
- イグニッションサーキットカットオフシステム 4-20

日常点検 5-1
- 日常点検の実施 5-1
- 日常点検箇所／点検内容 5-1

運転操作 6-1
- エンジン始動 6-1
- エンジン停止 6-2
- 発進 6-3
- 加速と減速 6-4
- ブレーキ 6-4
- ならし運転 6-5
- 駐車 6-5

点検整備 7-1
- 点検整備の実施 7-1
- サービスツール 7-2
- カバーの取り外し、取り付け 7-2
- エンジンオイル 7-4
- ファイナルギヤオイルの交換時期 7-6
- エンジンのかかり具合、異音の点検 7-6
- 低速、加速の状態の点検 7-7
- 冷却水 7-7
- エアクリーナーエレメント、V ベルトフィルターエレメント 7-8
- タイヤ 7-11
- ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検 7-12
- リヤブレーキロックのきき具合 7-13
- ブレーキパッドの点検 7-13
- ブレーキ液量の点検 7-13
- ブレーキ液の補給 7-14
- バックミラー 7-15
- 車体各部の給油脂状態の点検 7-16
- バッテリー 7-16
- ヒューズ交換 7-17
- 灯火装置および方向指示灯の点検 7-19
- 運行において異常が認められた箇所の点検 7-19

こんなときは 7-20
スマートキーシステムの
エマージェンシーモード 7-22

お車の手入れ 8-1
洗車 8-1
キャストホイールの取り扱い 8-2
ウインドシールドの取り扱い 8-3
保管のしかた 8-3
アフターケア用品について 8-4

製品仕様 9-1

ユーザー情報 10-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1
サービスマニュアル（別売）の
紹介 10-2
車両情報 10-2

安全運転のために

1

JAU27280

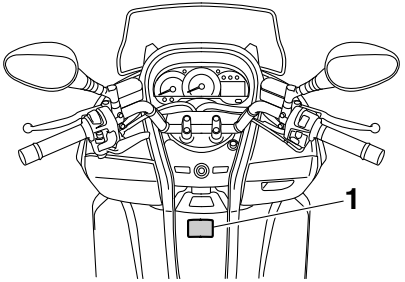
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU27428

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適していま

す。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11600

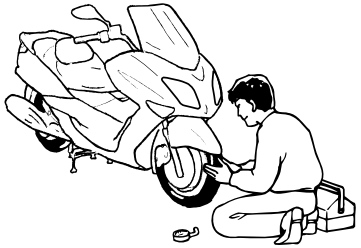
⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日

常点検を運転する前に行ってください。また、法令で定められた１年、２年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



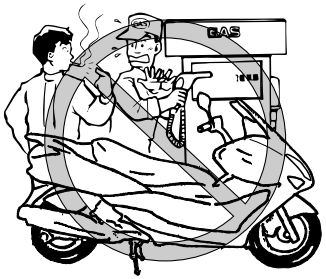
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

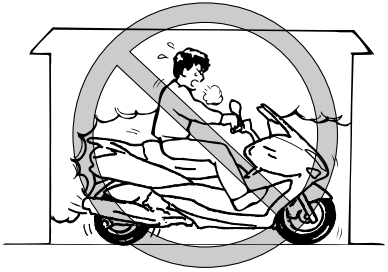
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



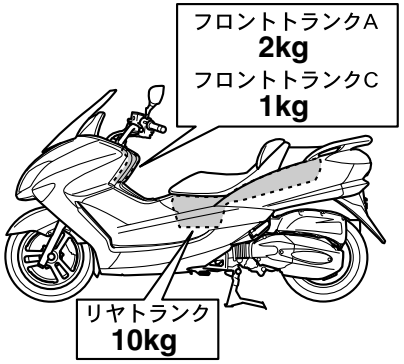
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物を積むときは



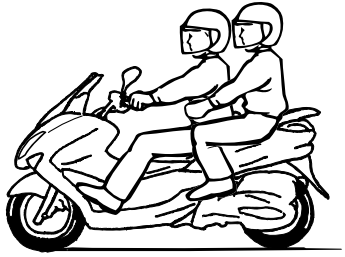
- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損した

り、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。

- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットボード

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットボードにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットボードにのせさせます。



押して移動するときはエンジンを止める

車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。

やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。

スロットルグリップを持って行うと思わぬ事故の原因となります。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

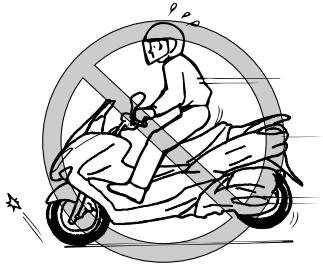
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

フットボードには人を乗せないでください。



急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15220

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

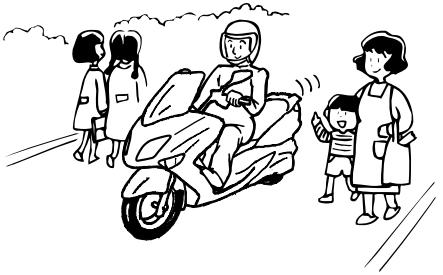


JAU27531

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

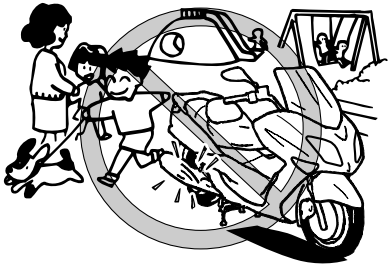
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

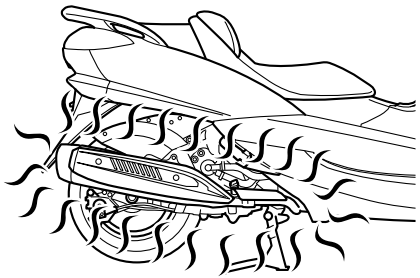
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12240

⚠警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

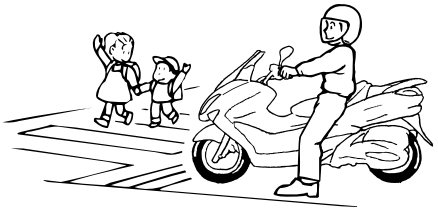
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27670

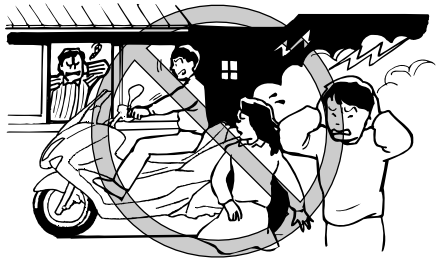
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

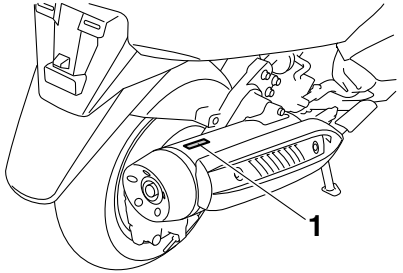


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



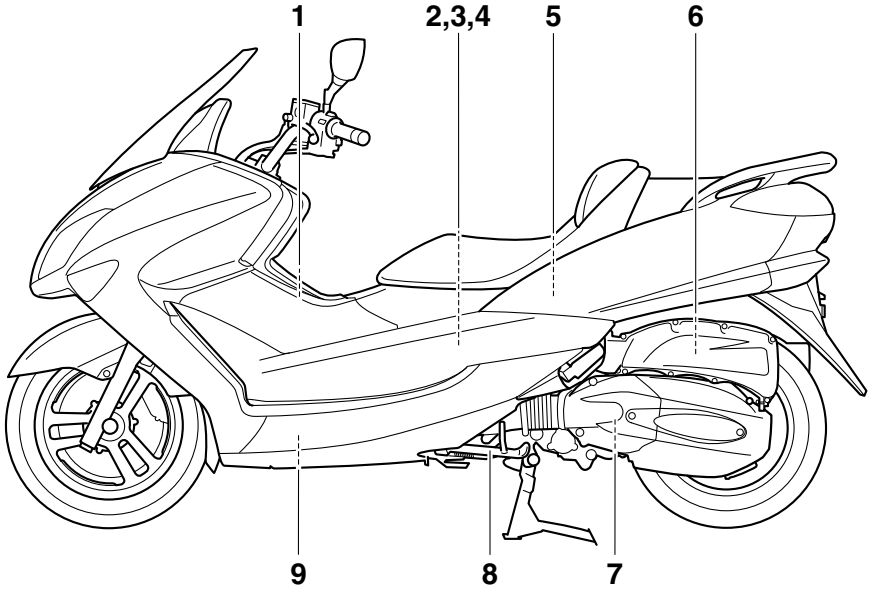
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10410

左側面

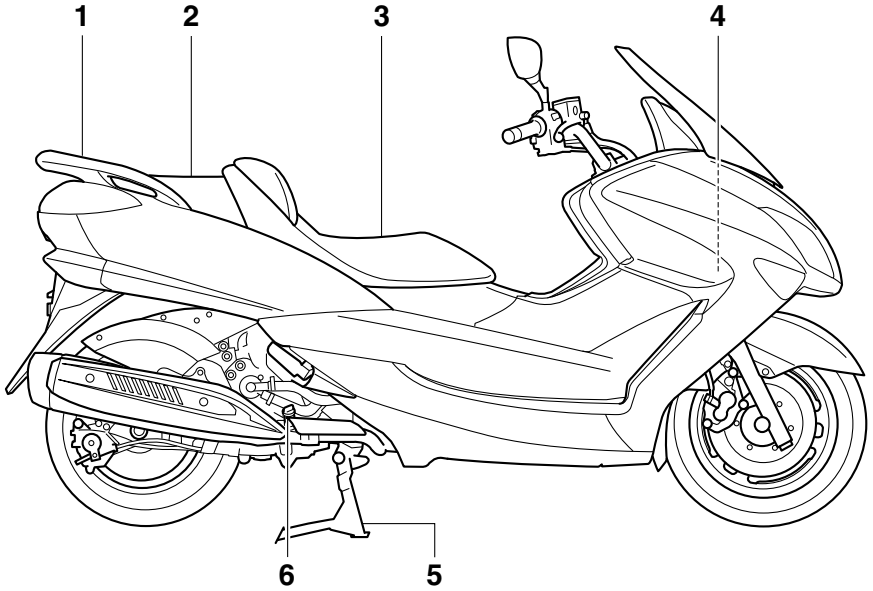


1. フューエルタンクキャップ（P4-13）
2. サービスツール（P7-2）
3. バッテリー（P7-16）
4. ヒューズ（P7-17）
5. リヤトランク（P4-16）
6. エアクリーナーエレメント（P7-8）
7. V ベルトフィルターエレメント B (P7-8)
8. サイドスタンド（P4-19）
9. V ベルトフィルターエレメント A (P7-8)

各部の名称

JAU10420

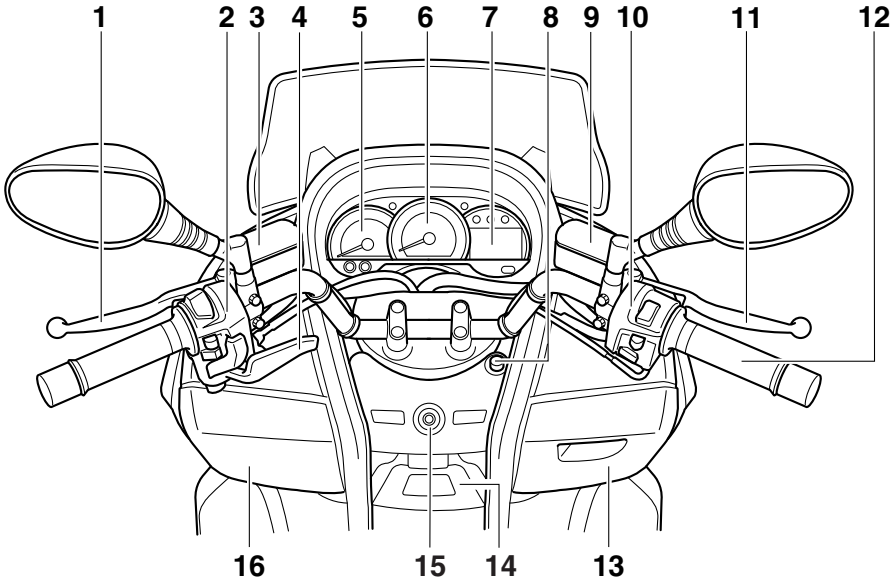
右側面



1. スタンディングハンドル（P4-19/P6-3）
2. タンデムシート（P3-11）
3. ライダーシート（P3-11）
4. リカバリータンク (P7-7)
5. メインスタンド
6. オイル注入口（P7-4）

JAU10430

運転装置と計器類



1. リヤブレーキレバー（P7-12）
2. ハンドルスイッチ（左）（P4-10）
3. リヤブレーキマスターシリンダー（P7-13/P7-14）
4. リヤブレーキロックレバー （P4-13/P7-13）
5. タコメーター（P4-6）
6. スピードメーター（P4-6）
7. マルチファンクションディスプレイ（P4-6）
8. ハンドルロックボタン（P3-10）
9. フロントブレーキマスターシリンダー（P7-13/P7-14）
10. ハンドルスイッチ（右）（P4-10）
11. フロントブレーキレバー（P7-12）
12. スロットルグリップ（P6-4）
13. フロントトランク C（P4-16）
14. フロントトランク B（P4-16）
15. メインスイッチ（P3-8）
16. フロントトランク A（P4-16）

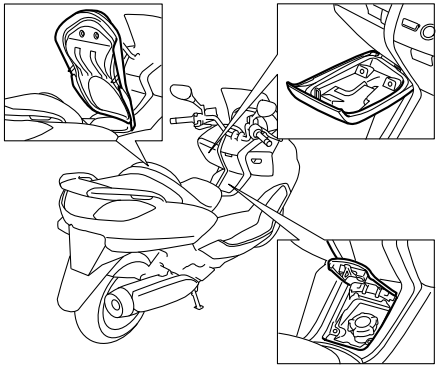
スマートキーシステム

JAU43880

スマートキーシステムの概要

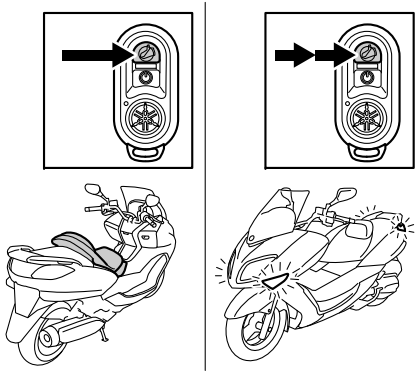
スマートキーシステムは、スマートキーを持っていることにより、メカニカルキーを取り出すことなく次の操作が可能になるシステムです。

- 電源の「ON/OFF」
- エンジンの始動と停止
- ハンドルロックの解除
- シートロック、フロントトランクAロック、フューエルリッドロックの解除



また、スマートキーのスイッチ操作により、次の遠隔操作が可能です。

- 1 回長押し（1 秒以上）で、シートロック解除
- 2 回押しで、アンサーバック機能（全ての方向指示器が点滅します。駐輪場などで、車の位置を確認するときなどに使用します。）



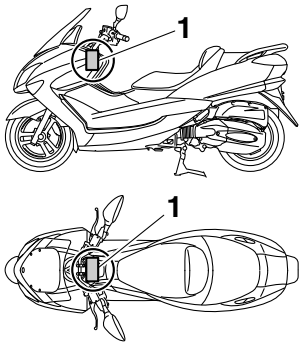
要　点

- スマートキーのスイッチ操作で遠隔操作ができる範囲は、半径約 5m です。
- スマートキーと車との位置関係や障害物などの影響で、通信できる範囲が変わります。
- 長期間使用しなかったとき、またはバッテリーを取り外して再接続した場合など、メインスイッチをONにしてエンジンを始動する前に、システムの関係から自動的に電源が OFF になることがあります。このようなときは、再度メインスイッチを ON にしてからエンジンを始動してください。
- 最後に車を使用してから（メインスイッチを ON から OFF にしてから）約 1 週間経過すると、バッテリー保護のためスマートキーの使用ができなくなります。この状態のときメインスイッチを ON にすると、エンジンを始動する前にシステムの関係から、自動的に電源が OFF になります。このようなときは、再度メインスイッチを ON にすると、エンジンを始動することができます。

JWA14700

⚠警 告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、車載アンテナ（イラスト参照）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。スマートキーシステムは、フロントトランクの前側に設置されたアンテナを使用して微弱電波を発信しています。この電波により、植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響を与えるおそれがあります。その他の医療用電子機器をご使用のお客様は、医師や医療用電気機器製造業者などに影響の有無を確認してからご使用ください。



1. 車載アンテナ

JCA15760

注 意

スマートキーシステムは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートキーシステムが正常に作動しないことがあり、各種ロックの解除や電源のONなどができないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所に置いたとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**
- **スマートキーを、携帯電話や無線機などの通信機器と一緒に携帯しているとき、または使用しているとき。**
- **スマートキーが金属物に触れていたり、覆われているとき。**
- **スマートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。**
- **近くで他の車がスマートキーシステムを使用しているとき。**

このようなときはスマートキーの場所を移動して、再度操作を行ってください。それでも作動しないときはメカニカルキーを使用して、エマージェンシーモード（7-22 ページ参照）の操作を行ってください。

JAU43890

スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い

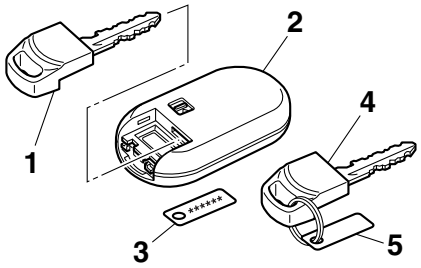
JWA14710

⚠ 警 告

- **スマートキーは、運転者が必ず携帯してください。**
- **スマートキーが作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない人でもエンジンの始動やシートロック、フロントトランク A ロック、フューエルリッドロック、ハンドルロックの解除が可能ですので、充分に注意してください。**

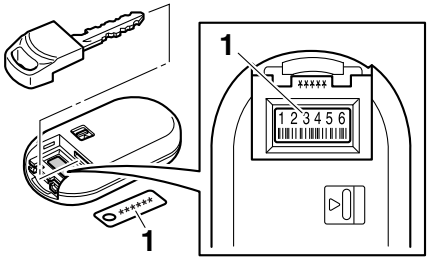
- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないよう、充分に注意してください。
- この車には、スマートキー 1 個、スマートキーの ID タグ 1 枚、メカニカルキー 2 本、メカニカルキーの ID タグ 1 枚が付属しています。メカニカルキーの 1 本と ID タグは、車の保管場所とは別にして大切に保管してください。また、ID タグの紛失に備えて、**ID 番号をメモなどに控えておくことをおすすめします。**

スマートキーシステム



1. メカニカルキー
2. スマートキー
3. スマートキーの ID タグ
4. メカニカルキー
5. メカニカルキーの ID タグ

- スマートキーとIDタグ(ID番号の控えを含む）を全て紛失または破損したときは、スマートキーシステム全体の部品交換になります。詳しくは販売店にご相談ください。
- スマートキーの裏側には、そのスマートキーの ID 番号を表示してあります。また2枚のIDタグにはそれぞれ､スマートキーの ID 番号（6 桁数字）およびメカニカルキーの ID 番号（アルファベット 1 文字と 4 桁数字）を表示してあります。緊急時にはこのスマートキーの ID 番号を入力することで、スマートキーを使用せずに各種ロックの解除やエンジンの始動が可能になります。緊急時の操作方法については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。



1. ID 番号

JCA15770

注 意

スマートキーは、信号を発信するための精密な電子部品を内蔵しています。故障の原因となりますので、以下のことを守ってください。

- **無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
- **水に濡らさないでください。**
- **重いものを上に置かないでください。**
- **直射日光があたる場所や、高温、多湿になるところに放置しないでください。**
- **火であぶったりしないでください。**
- **削ったり、穴を開けたりしないでください。**
- **超音波洗浄器などで洗浄しないでください。**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。**
- **テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。**
- **低周波治療器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。**
- **ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着しないようにしてください。変形したり、ひび割れたりすることがあります。**
- **シールを貼らないでください。**

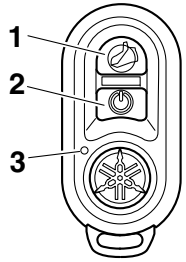
要　点

- スマートキーは車から離れているときも電池を消耗しています。
- 電池の寿命は使用状況により異なりますが、約 1 年程度です。（全く使用しなくても電池は消耗します。）
- メインスイッチをONにした時にメーターのキー表示灯が点滅（約 20 秒）した場合は、新しい電池に交換してください。（電池交換のしかたは、3-5 ページ参照）
- スマートキーは電波を受信し続けた場合、

それに反応して電池を著しく消耗することがあります。（例：テレビやパソコンなどの電気製品の近くに置いているとき）
- スマートキーのロック／アンロックスイッチを押してもスマートキー表示ランプが点灯しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。電池を交換しても直らない場合は、販売店にご相談ください。
- 予備のスマートキーが必要な場合は、販売店にご相談ください。スマートキーは、同じ車に最大6個まで登録することができます。
- スマートキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちにヤマハ販売店にご相談ください。

JAU43901

スマートキーの操作のしかた



1. シートオープンスイッチ
2. ロック／アンロックスイッチ
3. スマートキー表示ランプ

スマートキーのロック／アンロック切替

スマートキーを使用できる状態（アンロック）にするか、使用できない状態（ロック）にするかの切替方法です。
スマートキーのロック／アンロックスイッチ “” を長押し（1 秒以上）することで、スマートキーの通信モードを切り替えることができます。
スマートキーの表示ランプが2回点滅したとき・・・スマートキーがアンロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できます）
スマートキーの表示ランプが1回点滅したとき・・・スマートキーがロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できません）

スマートキーのロック／アンロックを確認する

スマートキーのロック／アンロックスイッチ “” を短押し（1 秒以内）することで、現在の通信モードの状態をスマートキー表示ランプによって確認することができます。
スマートキーの表示ランプが2回点滅したとき・・・アンロックになっています。
スマートキーの表示ランプが1回点滅したとき・・・ロックになっています。

遠隔シートオープン

シートオープンスイッチ “” を長押し（1 秒以上）することで、シートロックの解除ができます。シートロックが解除されると、アンサーバック動作（「ピピピッ」とアラームが鳴り、全ての方向指示器が 3 回点滅します）を行います。

遠隔アンサーバック

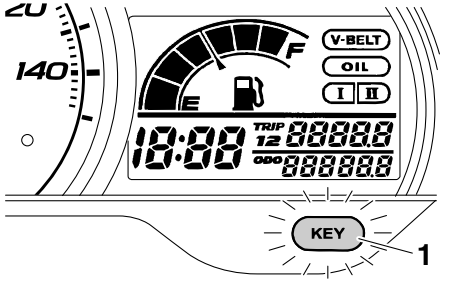
シートオープンスイッチ “” を２回押しすることで、アンサーバック動作（「ピピッ」とアラームが鳴り、全ての方向指示器が２回点滅します）を行います。駐輪場などで、車の位置を確認する際に便利な機能です。

JAU43910

スマートキーの電池交換のしかた

次のようなときは電池残量が少なくなっているので、新しい電池と交換してください。

- メインスイッチをＯＮにしたときに、キー表示灯が約 20 秒間点滅するとき。
- スマートキーのスイッチを押しても作動しないとき。



1. キー表示灯 “KEY”

JWA14720

⚠警 告

- **電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受けるおそれがあります。電池および取り外した部品を、子供の手が届くところに置かないでください。**
- **電池を直射日光に当てたり、熱源に近づけるなどしないでください。**

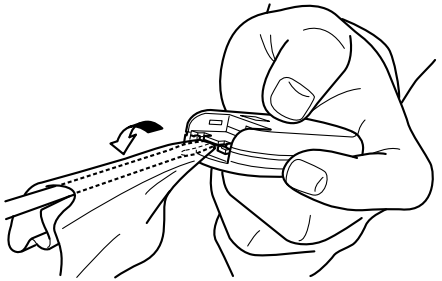
JCA15780

注 意

- **ドライバーなどにウエスをあてながら、部品を取り外してください。硬いものを直接あてがうと、本体に傷をつけるおそれがあります。**
- **電池の＋極と－極は必ず、正しく取り付けてください。**
- **防水シール部分の傷つきや、ゴミの混入に注意してください。耐水性能の低下や、故障の原因となります。**
- **内部の回路や端子などに触れないでください。故障の原因となります。**
- **電池交換の際、本体に無理な力を加えないでください。**
- **電池交換後は、スマートキーシステムの各機能が正常に作動するか必ず、確認してください。**

電池交換のしかた

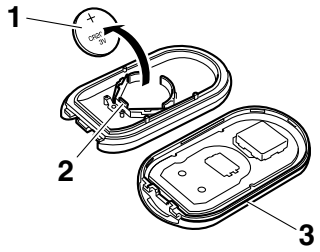
1. スマートキーのケースを開けます。



2. 電池の取り付け方向（表裏）を確認します。
3. ツメを軽く引きながら、電池を取り外します。

要　点

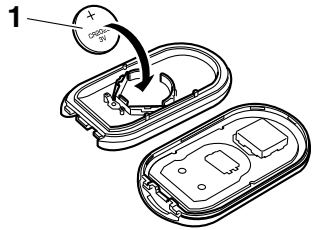
- ツメを引いたときに電池が飛び出すことがあります。
- 取り外した電池は、電池の説明書や各自治体の規則に従って処分してください。



1. 電池
2. ツメ
3. 防水シール

4. 電池を新しいものと交換します。

使用電池：
ボタン電池　CR2025×1 個



1. 電池

5. スマートキーを元どおりに組み立てます。

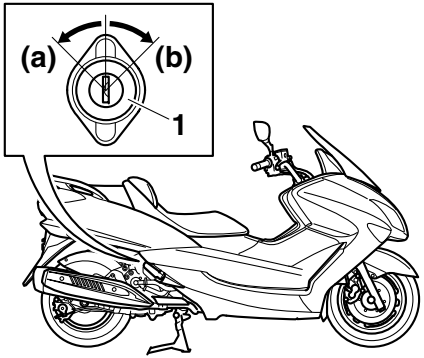
JAU44001

メカニカルキーの使いかた

スマートキーの紛失や電池切れ、車両のバッテリーが上がったとき、スマートキーシステムの作動ができない緊急時、または整備時などに、スマートキーを使用することなく、シートロックの解除とフロントトランク A ロックの解除ができ、荷物の取り出しや車両のバッテリーの交換を行うことができます。

シートロック、フロントトランク A ロックの解除のしかた

車両右横の後方から見えるキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、押しながら右または左へ回すことによって、シートロック、フロントトランク A ロックの解除をそれぞれ行うことができます。



1. キーシリンダー

押しながら (a) 方向に回すとシートロックの解除ができます。押しながら (b) 方向に回すとフロントトランク A の解除ができます。

JWA14730

⚠ 警 告

シートやフロントトランク A のロックを解除したときは、走行前に確実に閉まっていることを確認してください。

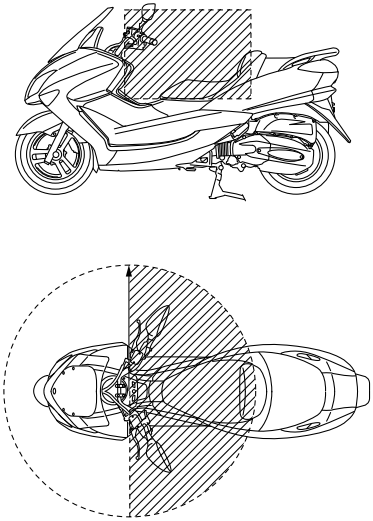
要　点

メカニカルキーをリヤトランクやフロントトランク A に入れないでください。緊急時にシートロックやフロントトランク A ロックの解除ができなくなり、メカニカルキーを取り出せなくなります。

JAU43922

スマートキーシステムの作動範囲

車がスマートキーの所在を確認して認証するときの作動範囲は、ハンドルの中心より半径約 0.8m です。



要　点

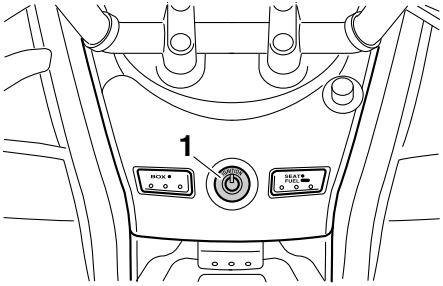
- スマートキーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が広くなったり狭くなったりすることが

あります。
- スマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- スマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- スマートキーの持ち方により、作動しにくいことがあります。
- スマートキーがロック状態の場合、スマートキーを持っていてもスマートキーシステムは作動しません。スマートキーシステムが作動しない場合は、スマートキーのロック／アンロック状態を確認してください。
- 車とスマートキーが通信できない状態でメインスイッチ、トランクオープンスイッチ、シートオープンスイッチを連続操作したときは、盗難やいたずら目的の操作とみなし、一定の時間が経過するまで各スイッチの操作を受け付けなくなります。
- リヤトランク内やフロントトランク内は、スマートキーの作動範囲外となる場合があります。また、リヤトランク内やフロントトランク A 内にスマートキーを入れた状態でロックした場合、スマートキーが閉じ込められ、スマートキーシステムを使用できなくなる可能性があります。スマートキーは必ず、運転者が携帯してください。
- スマートキーを車に置き忘れると、車両盗難につながるおそれがあります。車から離れるときは、盗難予防のために必ずハンドルロックを掛け、スマートキーを持って離れてください。そのとき、スマートキーをロックの状態にすることをおすすめします。

JAU43933

ハンドルロック解除と車の電源 ON

1. アンロックの状態にしたスマートキーを持って、車に近づきます。
2. メインスイッチを短押し（1 秒以内）します。



1. メインスイッチ

3. スマートキーが認証されると、メーターのキー表示灯が点灯し、ハンドルロックが自動的に解除されます。

要　点

- 車の電源をONにするときにメインスイッチを長押し（1 秒以上）してしまうと、車の電源が ON にならず、ハンドルロックのみが解除されます。このとき、メーターのキー表示灯が点灯しますが、電源は ON に

なりません。この状態から電源を ON にするには、もう一度メインスイッチを短押し（1 秒以内）します。

- ハンドルに力が加わっているときなど、ハンドルロックが引っ掛かって自動解除できない場合は、メーターのキー表示灯が点滅します。このようなときは、ハンドルを左右に少し動かしてみてください。
- ハンドルロックの自動解除ができない状態が続くと、キー表示灯が 16 回点滅して消灯し、自動解除動作を途中で中止します。このとき、ハンドルロックは正常に解除されていない状態になり、電源は ON になりません。この状態から電源を ON にするには、ハンドルを少し左右に切ってロックを解除したあと、メインスイッチを短押し（1 秒以内）します。
- ハンドルロックが完全に解除されないと、車の電源が ON になりません。
- メインスイッチを押したときにアンサーバック動作をしない場合、バッテリーが弱っているか、あがっている可能性があります。バッテリーを点検し、必要に応じて充電してください。

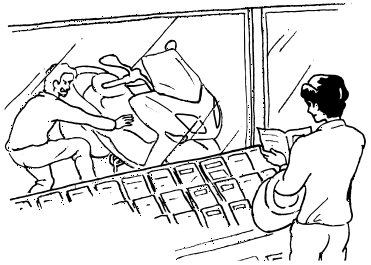
JCA15821

注 意

ハンドルロックが解除されず、メーターのキー表示灯が点滅をしている場合は、スマートキーシステムの故障が考えられます。ヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

- ハンドルロックの自動解除ができないときは、解除動作を途中で中止し、ハンドルが正常にロックされていない状態になることがあります。このとき、キー表示灯が 16 回点滅して消灯し、電源は ON になりません。この状態から正常にハンドルロックをかけるには、ハンドルを少し左右に切ってロックを解除したあと、メインスイッチを短押し（1 秒以内）して電源を ON にします。さらにメインスイッチを押して（短押しまたは長押し）電源を OFF にし、ハンドルロックボタンを押してハンドルロックをかけます。
- 車から離れる際は、ハンドルが確実にロックされていることを必ず、確認してください。
- お店のガラス越しや家の塀越しなどの隔てた場所に駐車した場合でも、車がスマートキーシステムの作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない他の人でもエンジンの始動や、シートロック、フロントトランク A ロック、フューエルリッドロック、ハンドルロックの解除が可能になります。このようなときは、スマートキーをロックの状態にしてください。（スマートキーのロック／アンロック切替操作方法は、3-4 ページを参照してください）

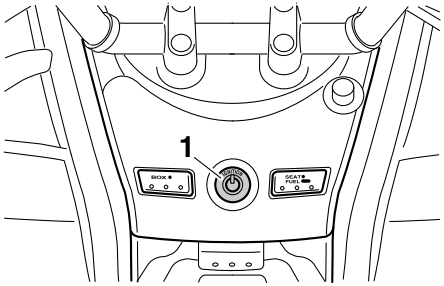


4. ハンドルロックの解除が完了すると、車の電源が ON になります。このとき、アンサーバック動作（「ピピッ」とアラームが鳴り、全ての方向指示器が 2 回点滅します）を行います。

JAU43942

車の電源 OFF

アンロック状態のスマートキーを持って、メインスイッチを押す（短押しまたは長押し）ことにより、車の電源が OFF になります。このとき、アンサーバック動作（「ピッ」とアラームが鳴り、全ての方向指示器が 1 回点滅します）を行います。



1. メインスイッチ

要　点

- 車の電源をOFFする操作は、必ず運転者自身の手で行い、電源が OFF になったことを確認してください。
- スマートキーを持った運転者がスマートキーシステムの作動範囲外に移動しても、車の電源は自動的にOFFにはなりません。
- 走行中は、車の電源をOFFにする操作を行うことができません。電源を OFF にする操作を行うときは、必ず車を安全な場所に停車して行ってください。
- 車の電源を OFF にする操作時に作動範囲内にスマートキーがないと、車の電源は OFF にならずにメーターのキー表示灯が点滅して異常を知らせます。スマートキーの所在を確認してください。
- スマートキーが無くても、メーターのキー表示灯が点滅している間にもう一度電源 OFF の操作を行えば、電源の OFF は可能です。
- スマートキーが無い状態で電源をONにする操作については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

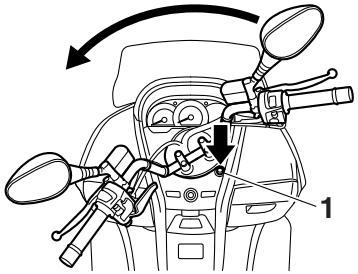
JAU43951

ハンドルロックのかけかた

車の電源を OFF にした後、車を安全な駐車場所まで移動し、ハンドルを左へいっぱいに切った状態でハンドルロックボタンを戻らなくなるまで押し込みます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルロックボタンを押しながら、ハンドルを少し動かしてみてください。



1. ハンドルロックボタン

JWA14740

⚠ 警 告

車が動いている状態では、ハンドルロック操作をしないでください。

要　点

- ハンドルロックは必ず運転者自身の手でロック操作を行い、ハンドルを左右に動かして正常にロック動作が完了したことを確認して車から離れてください。ハンドルロックは自動的にはロックしません。
- 車から離れるときは、盗難予防のために必ずハンドルロックをかけ、スマートキーを持って車から離れてください。そのとき、スマートキーをロックの状態にすることをおすすめします。

JAU43961

ハンドルロックだけを解除する

駐輪場内の移動時など、車の電源を ON にしないで車を移動したいときは、アンロック状態にしたスマートキーを持ち、メインスイッチを長押し（1 秒以上）するとハンドルロックのみを解除することができます。

要　点

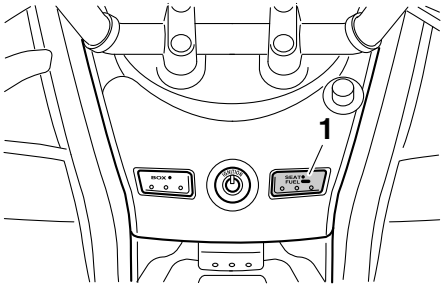
移動した先で、必ずハンドルロック操作を行ってください。

JAU43971

シートの開閉

ライダーシートの開けかた

1. スマートキーがアンロックの状態で作動範囲内に入ります。
2. シートオープンスイッチを短押し（1 秒以内）します。



1. シートオープンスイッチ

3. スマートキーが認証されると、シートロックが解除されます。

JWA14750

⚠警 告

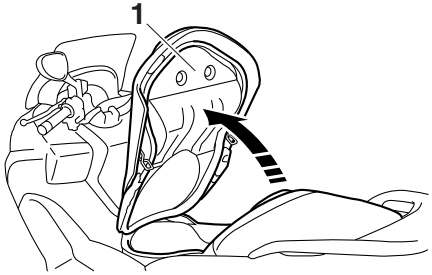
走行中は、シートオープンスイッチを操作しないでください。

要　点

- シートロックが解除されると、アンサーバック動作（全ての方向指示器が 2 回点滅

します）を行います。
- 電源がONのときにシートオープンした場合は、アンサーバック動作を行いません。

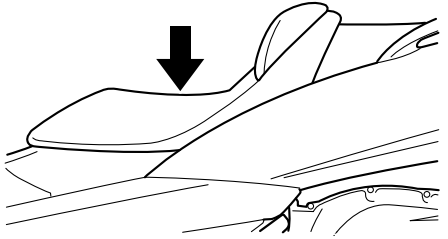
4. ライダーシート後方を手で持ち上げてシートを開けます。



1. ライダーシート

ライダーシートの閉めかた

ライダーシートを下ろし、シートの着座部分を押さえてロックします。



JCA15850

注 意

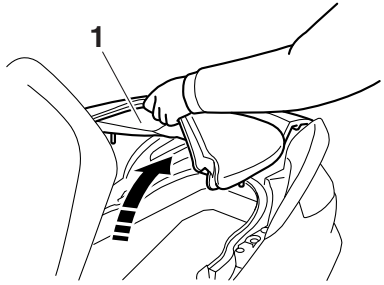
ライダーシートを開けたまま走行しないでください。

要 点

ライダーシートを閉めたあと、確実にロックされているか確認してください。

タンデムシートの開けかた

1. ライダーシートを開けます。(3-11 ページ参照)
2. タンデムシートを持ち上げて、シートストッパーが掛かるまで開きます。



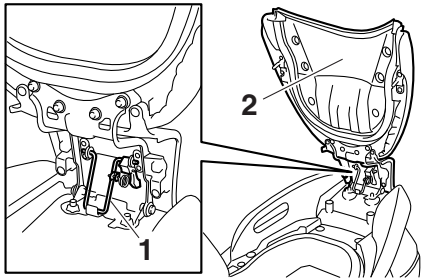
1. タンデムシート

JCA15860

注 意

タンデムシートのシートストッパーが確実に出ていることを確認してください。(シートストッパーが出る際に、「カチッ」という金属音がします。)

3



1. シートストッパー
2. タンデムシート

タンデムシートの閉めかた

1. タンデムシートの上部に手を添えて、タンデムシートを支えます。
2. 黄色のシートストッパー解除レバーの上部を押して、シートストッパーを解除します。

JWA15330

⚠ 警 告

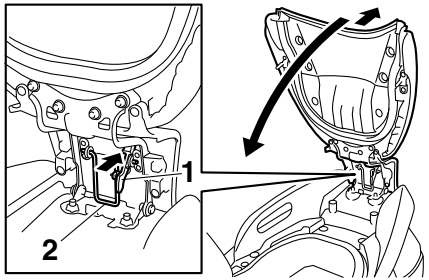
- **シートストッパーを解除するとタンデムシートが不安定な状態になりますので、必ずタンデムシートを手で支えた状態でシートストッパーの解除を行ってください。**
- **シートストッパー解除レバーでシートストッパーを解除した状態のまま放置すると、タンデムシートが突然閉まり、手や指をはさむ可能性があります。**

JCA15871

注 意

シートストッパー解除レバーを解除しない状態でタンデムシートを閉めないでください。タンデムシートが破損するおそれがあります。

3. タンデムシートを一旦、開く方向に少し持ち上げるように倒します。(約５度) これにより、シートストッパーが格納されます。



1. シートストッパー解除レバー
2. シートストッパー

JCA15880

注 意

タンデムシートのシートストッパーが確実に戻っていることを確認してください。(シートストッパーが戻る際に、「カチッ」という金属音がします。)

4. タンデムシートを下ろし、タンデムシートの前部を押さえて閉じます。
5. ライダーシートを閉じます。

JCA16010

注 意

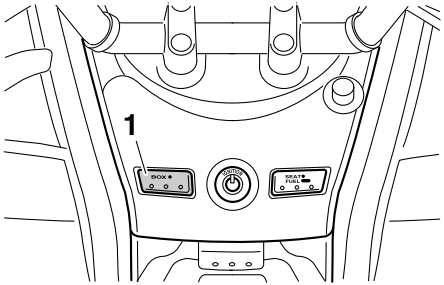
- **タンデムシートはライダーシートを開いた状態でないと閉まりません。ライダーシートが閉まった状態でタンデムシートを閉めると、ライダーシートが損傷したり、タンデムシートが破損するおそれがあります。**
- **タンデムシートを開けたまま走行しないでください。**
- **タンデムシートが確実に閉まっているか、確認してください。確実に閉まっていない場合、リヤトランク内に水が入るおそれがあります。**

JAU43981

フロントトランク A の開閉

フロントトランク A の開けかた

1. スマートキーがアンロックの状態で作動範囲内に入ります。
2. トランクオープンスイッチを押します。



1. トランクオープンスイッチ

3. スマートキーが認証されると、フロントトランク A のロックが解除されます。

JWA14760

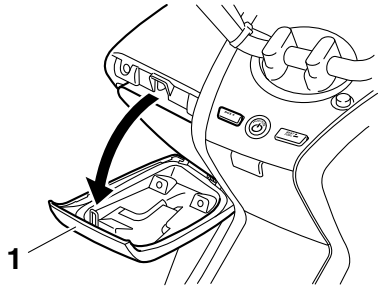
⚠ 警 告

走行中は、トランクオープンスイッチを操作しないでください。

要　点

- フロントトランク A のロックが解除されると、アンサーバック動作（全ての方向指示器が 2 回点滅します）を行います。
- 電源が ON のときにフロントトランク A のオープン操作を行った場合、アンサーバック動作は行いません。

4. フロントトランク A のトランクリッドを開けます。



1. トランクリッド

要　点

スマートキーシステムが作動しないときは、メカニカルキーを使ってシートとフロントトランク A のロックを解除することができます。メカニカルキーを使ったロック解除のしかたについては、3-6 ページを参照してください。

フロントトランク A の閉めかた

トランクリッドを元の位置に戻し、上部の中央を押してロックします。

要　点

- トランクリッドを閉めたあと、確実にロックが掛かっていることを確かめてください。
- スマートキーやメカニカルキー、ID タグをフロントトランク A 内に入れないでください。スマートキーやメカニカルキー、ID タグを閉じ込めてしまうおそれがあります。また、スマートキーシステムが正常に作動しなくなることがあります。

JAU43850

YCC-AT 制御モードの選択

YCC-AT 制御モードとは、電子制御によりドライブモードと２種類（アシスト I/ アシスト II）のアシストモードが選択できるシステムです。

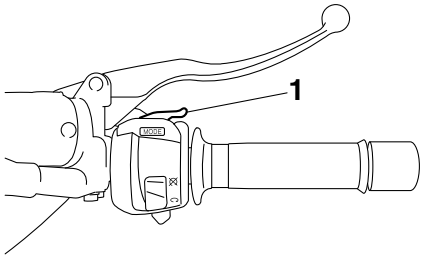
JCA15900

注 意

使用前に各スイッチの操作内容を充分確認、理解してから操作してください。（4-3 ページ参照）

ドライブモード

スロットルの開度と速度に応じて自動的に変速する、標準のモードです。モードスイッチ “MODE” を操作することで、アシスト I、アシストIIのモードに切り替えができます。



1. モードスイッチ “MODE”

アシスト I モード

山道などで、レスポンス良く走行するような場合に選択します。

アシスト II モード

高速道路での追い越しなどで、よりスムーズな加速を得たい場合に選択します。

各モードの切り替えは、モードスイッチ “MODE” を操作して行います。各モードの切り替え方法については 4-3 ページを参照してください。

JAU43860

YCC-AT と I- シフトシステムの作動

YCC-AT			
走行モード	ドライブモード	アシスト Ⅰモード	アシスト Ⅱモード
変速比特性	ノーマル	ロー	ロー
特長	軽快な走行性と燃費性を考慮したモードで、円滑で快適な走行性能となっています。 ふだんは、このモードをご使用ください。	低速から中速域を中心に、変速比特性をローギヤ化しています。そのため、エンジン回転数がやや高めになり、エンジン出力のダイレクト感が得られます。 加速力やエンジンブレーキ効力が得やすいモードですので、キビキビした走行やワインディング走行に適しています。	変速比特性はアシスト Ⅰ モードと同じですが、スロットルをすばやく開けたとき、車速とエンジン回転数に応じて自動的にシフトアップしていく加速感が得られます。
I-シフトシステム			
I-シフトアップ	ドライブモードでは作動しません。	アシスト Ⅰ モードでは作動しません。	スロットルをすばやく開けたときに対応して、自動的に作動します。
I-シフトダウン	運転者が I-シフトスイッチを操作して作動させます。 全モードで、運転者の意図に応じた加速・減速を支援するシフトダウン機能“I-シフトダウン”の使用が可能です。		

JAU43871

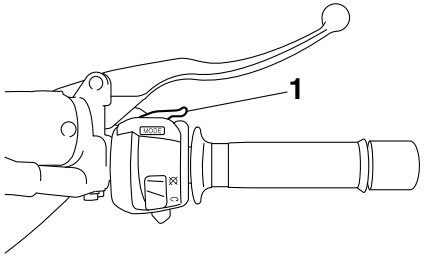
走行モードの切り替え

走行モードの切り替えは、モードスイッチ “MODE” と I- シフトスイッチ “I-S” の操作、およびスロットル操作で行います。

モードスイッチ “MODE” 操作

モードスイッチ “MODE” を押すごとに、走行モードが下記の順で切り替わります。

ドライブモード → アシスト I モード → アシスト II モード → ドライブモード



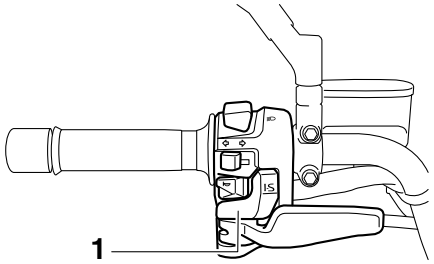
1. モードスイッチ “MODE”

要　点

- 各モードの切り替えは、エンジンが始動した後に可能となります。
- エンジン始動前は常にドライブモードです。エンジンを停止すると、それまで選択していたモードにかかわらず、常にドライブモードに戻ります。
- 選択したモードがアシスト I モード、またはアシスト II モードの場合は、アシスト表示灯とマルチファンクションディスプレイ内のアシスト I、またはアシスト II の表示灯が点灯します。（4-4 ページ、4-6 ページ参照）
- アシストモードではドライブモードよりもエンジン回転数が高くなります。
- モードスイッチ “MODE” をすばやく続けて押した場合、最初に押した分のみ受け付けられます。

I- シフトスイッチ “I-S” 操作

モードスイッチ “MODE” を操作してのモード切り替えに加えて、I- シフトスイッチ “I-S” を押すことで任意にシフトダウンが可能です。この “I-S” 操作は、全ての走行モードにおいて使用ができます。エンジンブレーキを効かせたいときや、登坂力を得たいときに使用してください。



1. I- シフトスイッチ “I-S”

要　点

- I-シフトスイッチ “I-S” を押して I-シフトダウン実行中は、I-S 表示灯が点灯します。
- スロットルを閉じた状態で I-シフトスイッチ “I-S” を押した場合、スロットルを一旦開けてから次に閉じると、I- シフトダウンがキャンセルされ、I-シフトスイッチ “I-S” を押す前の変速状態に戻ります。
- I-シフトスイッチ “I-S” を押して I-シフトダウン実行中にモードスイッチ “MODE” を押すと、I- シフトダウンがキャンセルされ、I- シフトスイッチ “I-S” を押す前の変速状態に戻ります。
- I- シフトダウン実行中にスロットルを閉じる操作を行っても、I- シフトスイッチ “I-S” を押す前の変速状態に戻ります。

- I- シフトスイッチ “I-S” を連続して押すことで、最大 5 段階までのシフトダウンが可能です。
- 次の場合は I- シフトスイッチ “I-S” を押しても操作を受け付けません。このとき、I-S 表示灯が 3 回点滅して知らせます。
  - シフトダウンによってエンジンが過回転となるおそれがある場合。
  - 車の速度が 15km/h 以下の場合。
  - I- シフトアップを実行中。

スロットル “I- シフトアップ” 操作

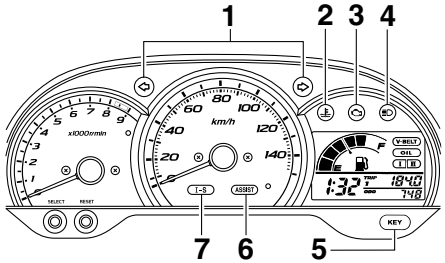
モードスイッチ “MODE” を押してアシスト II モードを選択している時にスロットルをすばやく開けると、自動的に I- シフトアップに移行して強力な加速が得られます。

要　点

I- シフトアップの実行中にスロットルを閉じる操作を行うと、通常のアシスト II モードに戻ります。

JAU11006

警告灯と表示灯



1. 方向指示器表示灯 “⇦/⇨”
2. 水温警告灯 “”
3. エンジン警告灯 “”
4. ヘッドライト上向き表示灯 “”
5. キー表示灯 “KEY”
6. アシスト表示灯 “ASSIST”
7. I-S 表示灯 “I-S”

JAU11030

方向指示器表示灯 “⇦/⇨”

方向指示にあわせて点滅します。

JAU11080

ヘッドライト上向き表示灯 “”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU44020

水温警告灯 “”

エンジン冷却水が規定温度以上になった時、警告灯が点灯するか、点滅します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA11850

注 意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

要　点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 1 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU44030

エンジン警告灯 “”

エンジンの電気回路に異常が発生した時、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要　点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 1 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU44040

アシスト表示灯 “ASSIST”

モードスイッチ “MODE” を操作して、アシスト I またはアシスト II モードを選択すると点灯します。モードスイッチ “MODE” の操作は 4-3 ページを参照してください。

要　点

メインスイッチを ON にしたとき、表示灯が約 1 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA15930

注 意

YCC-AT に異常が発生したときは I-S 表示灯とともに点滅します。すみやかに安全な場所に車を停車させ、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU44050

I-S 表示灯 “I-S”

I- シフトスイッチ “I-S” を操作してシフトダウンを実行しているときや、I- シフトアップを実行しているときに点灯します。I- シフトスイッチ “I-S” の操作は 4-3 ページを参照してください。

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、表示灯が約 1 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- I- シフトスイッチ “I-S” を操作しても、操作が受け付けられない時は表示灯が3回点滅します。

JCA15940

注 意

YCC-AT に異常が発生したときはアシスト表示灯とともに点滅します。すみやかに安全な場所に車を停車させ、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU44061

キー表示灯 “KEY”

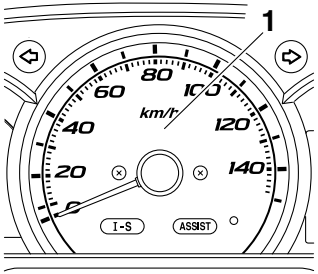
スマートキーシステムの状態を表示します。スマートキーシステムが正常に作動しているときは、キー表示灯は消灯しています。スマートキーシステムに異常があると、キー表示灯が点滅します。また、走行中にスマートキーを紛失したとき、スマートキーの電池が消耗しているとき、強い電波やノイズがある場所で使用しているときなど、通信不良となったときにキー表示灯が点滅することがあります。ただし、走行に影響はありません。

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、表示灯が約 1 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 走行中にキー表示灯が点滅し、車がスマートキーの所在を確認しているときは必ず、車を安全な場所に停車させてからスマートキーを探してください。
- スマートキーを紛失などして一旦エンジンを停止した場合、その後、エンジンの始動ができなくなります。このような場合、メカニカルキーがあればエンジンを始動することができます。メカニカルキーを使用してエンジンを始動する方法については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JAU11601

スピードメーター

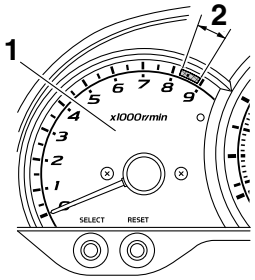


1. スピードメーター

車の速度を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0” に戻ります。

JAU33802

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0” に戻ります。

JCA12961

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。レッドゾーン：8250r/min 以上

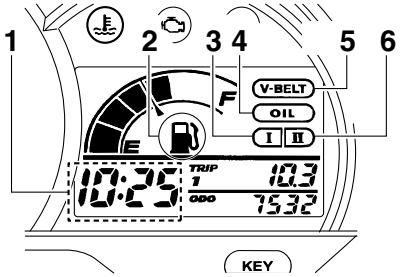
JAU44091

マルチファンクションディスプレイ

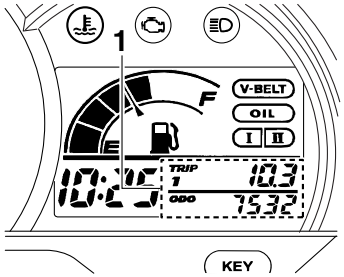
JWA12160

警 告

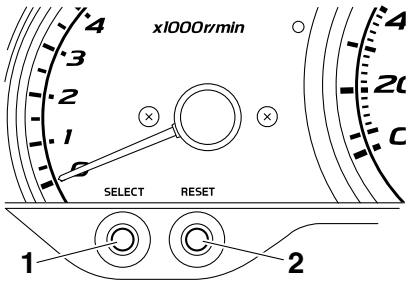
表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必ず停車中に行ってください。



1. 時計
2. 燃料警告表示 “⛽”
3. アシスト I 表示 “I”
4. エンジンオイル交換表示 “OIL”
5. V ベルト交換表示 “V-BELT”
6. アシスト II 表示 “II”



1. オドメーター／トリップメーター



1. “SELECT” ボタン
2. “RESET” ボタン

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- 燃料計
- オドメーター（走行した総距離を表示します。）
- トリップメーター〈1 ／ 2〉（リセットしてからの走行距離を積算します。）
- フューエルトリップメーター（燃料計の 1 セグメントと燃料警告表示が点滅してからの走行距離を表示します。）
- エンジンオイルトリップメーター（前回エンジンオイルを交換してからの走行距離を表示します。）
- V ベルトトリップメーター（前回 V ベルトを交換してからの走行距離を表示します。）
- 自己診断機能
- 時計
- エンジンオイル交換表示
- V ベルト交換表示
- アシスト I 表示
- アシスト II 表示

要　点

- “SELECT” ボタンや “RESET” ボタンを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。
- メインスイッチを ON にすると、全てのセグメントを表示し、その後通常表示になります。このときマルチファンクションディスプレイは回路の点検を行っています。

時計

時刻調整のしかた

1. “SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押します。
2. <時>の表示が点滅したら、“RESET” ボタンを押して<時>を合わせます。
3. “SELECT” ボタンを押すと、<分>の表示が点滅します。
4. “RESET” ボタンを押して<分>を合わせます。
5. “SELECT” ボタンを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

トリップメーター

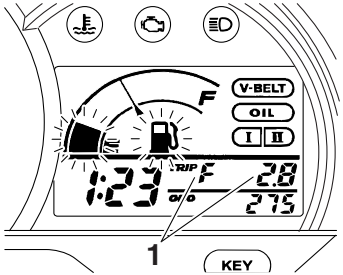
“SELECT” ボタンを押すごとに、トリップメーターモード “TRIP” が下記の順で切り替わります。

TRIP 1 → TRIP 2 → OIL → V-BELT → TRIP 1

フューエルタンクのガソリンの残量が約 3.5 L になると、燃料計の 1 セグメントと燃料警告表示が点滅し、トリップメーターの表示はフューエルトリップメーター “TRIP F” に切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。このとき “SELECT” ボタンを押すと、トリップメーターモード “TRIP” は下記の順に切り替わります。

TRIP F → TRIP 1 → TRIP 2 → OIL →

V-BELT → TRIP F



1. フューエルトリップメーター

トリップメーターのリセットは、“SELECT” ボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから “RESET” ボタンを 1 秒以上押します。フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5km 走行すると自動的にトリップメーターの表示になります。

燃料計

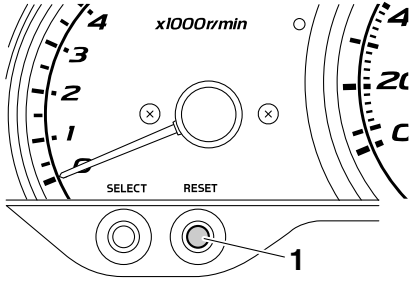
メインスイッチをONにするとフューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントの数が減ります。ガソリンの残量が少なくなると残りの1セグメントと燃料警告表示が点滅して知らせます。燃料計のセグメントが点滅状態になったら、残量は約 3.5 L です。早めに補給してください。

エンジンオイル交換表示 “OIL”

エンジンオイルの交換時期を知らせます。初回は走行距離が 1000km になると、以降はリセット後5000km走行すると表示が点滅します。エンジンオイル交換表示 “OIL” が点滅したら早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

エンジンオイル交換後は必ずリセットしてください。エンジンオイル交換表示が表示される前にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

リセットはメインスイッチを ON にして、“SELECT” ボタンで “OIL” トリップモードに切り替えます。“OIL” トリップモードの状態でリセットボタン “RESET” を 1 秒以上押すと、表示の TRIP と走行距離が点滅します。点滅中にリセットボタン “RESET” を 3 秒以上押すと、エンジンオイルトリップメーターがリセットされて走行距離がゼロになり、エンジンオイル交換表示 “OIL” が点滅から点灯に変わります。その後、“SELECT” ボタンで必要な表示モードに切り替えます。



1. “RESET” ボタン

エンジンオイル交換表示の電気回路は以下の手順で点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを “ ” にセットし、メインスイッチを ON にします。
2. エンジンオイル交換表示が約 1 秒間表示され、その後消灯することを点検します。
3. 表示されないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

要 点

メインスタンドを立ててエンジンを始動したときにエンジンオイル交換表示が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

V ベルト交換表示 “V-BELT”

V ベルトの交換時期を知らせます。走行距離

が 20000 km になると V ベルト交換表示 “V-BELT” が点滅します。早めにヤマハ販売店に V ベルトの交換を依頼してください。V ベルト交換後は必ずリセットしてください。V ベルト交換表示が点滅する前に V ベルト交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

リセットはメインスイッチを ON にして、“SELECT” ボタンで “V-BELT” トリップモードに切り替えます。“V-BELT” トリップモードの状態でリセットボタン “RESET” を 1 秒以上押すと、表示の TRIP と走行距離が点滅します。点滅中にリセットボタン “RESET” を 3 秒以上押すと、V ベルトトリップメーターがリセットされて走行距離がゼロになり、V ベルト交換表示 “V-BELT” が点滅から点灯に変わります。その後、“SELECT” ボタンで必要な表示モードに切り替えます。

Vベルト交換表示の電気回路は以下の手順で点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを “ ” にセットし、メインスイッチを ON にします。
2. V ベルト交換表示が約 1 秒間表示され、その後消灯することを点検します。
3. 表示されないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

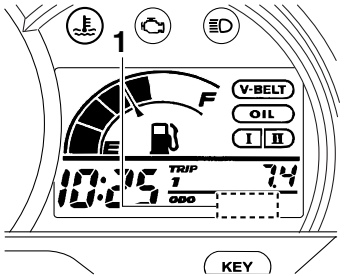
アシストI表示 “I” /アシストII表示 “II”

MODE スイッチを操作して変速モードのアシスト I またはアシスト II を選択していることを知らせます。

自己診断機能

このモデルには電気回路、エンジン、YCC-AT の自己診断装置が備わっています。

故障が発生した場合、電源を ON にしたときにマルチファンクションディスプレイのオドメーター表示部にエラーコードが表示されます。



1. エラーコード表示

マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA15950

注 意

マルチファンクションディスプレイがエラーコードを表示している時は、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早くヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU12331

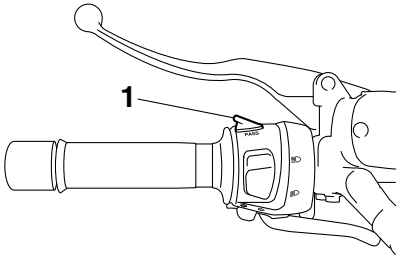
盗難警報器（オプション）

この車には、オプションで盗難警報器を装着することができます。装着については、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU1234A

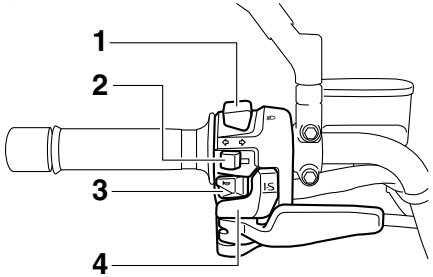
ハンドルスイッチ

<左>



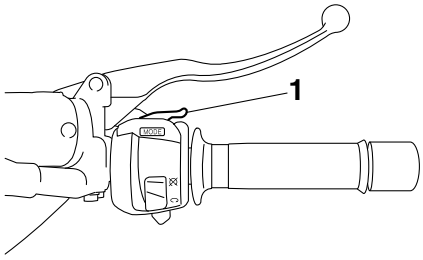
1. パッシングライトスイッチ “PASS”

<左>



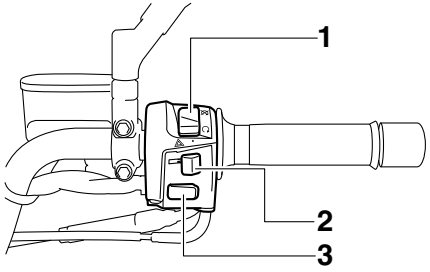
1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”
2. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
3. ホーンスイッチ “”
4. I-シフトスイッチ “I-S”

<右>



1. モードスイッチ “MODE”

<右>



1. エンジンストップスイッチ “/”
2. ハザードスイッチ “”
3. スタータースイッチ “”

JAU12360

パッシングライトスイッチ “PASS”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合

図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが“≡D”のときは、使用できません。

JAU12400

ヘッドライト上下切り替えスイッチ“≡D/≡D”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≡D（上向き）：遠くを照らします。

≡D（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12460

方向指示器スイッチ“⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨：右側の方向指示灯が点滅します。

⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11640

⚠警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11982

注　意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12500

ホーンスイッチ“🔊”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28181

エンジンストップスイッチ“⊠/◯”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は“◯”にしておきます。

JWA12100

⚠警　告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12350

注　意

- **非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、エンジンストップスイッチを“◯”→“⊠”→“◯”にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。**

要　点

“⊠”にすると、エンジンは始動できません。

JAU12721

スタータースイッチ“Ⓢ”

サイドスタンドを上げた状態で、リヤブレーキレバーを握りながらこのスイッチを押すと、スターターモーターが回転しエンジンが始動します。

JCA11881

注　意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。**

JAU12765

ハザードスイッチ “⚠”

メインスイッチを ON にした状態で、スイッチを “⚠” にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11890

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU44071

I- シフトスイッチ “I-S”

走行状態がドライブモード、アシスト I モードまたはアシスト II モードの時、任意でシフトダウン操作を行うスイッチです。連続して押すことで、最大 5 段階までのシフトダウンが可能です。

要 点

次の場合は I- シフトスイッチ “I-S” を押しても操作を受け付けません。このとき、I-S 表示灯が 3 回点滅して知らせます。

- シフトダウンによってエンジンが過回転となるおそれがある場合。
- 車の速度が 15km/h 以下の場合。
- I- シフトアップを実行中。

要 点

操作の詳細については 4-3 ページを参照してください。

JAU44080

モードスイッチ “MODE”

走行モードをドライブモード、アシスト I モード、アシスト II モードに変更するスイッチです。スイッチを押すごとにドライブ → アシスト I → アシスト II → ドライブと、モードが順に切り替わります。

要 点

- 各モードの切り替えはエンジンが始動した後に可能となります。
- エンジン始動前は常にドライブモードです。エンジンを停止すると、それまで選択していたモードにかかわらず、常にドライブモードに戻ります。
- 選択したモードがアシスト I モード、またはアシスト II モードの場合はアシスト表示灯とマルチファンクションディスプレイ内のアシスト I、またはアシスト II の表示灯が点灯します。（4-4 ページ、4-6 ページ参照）
- アシストモードではドライブモードよりもエンジン回転数が高くなります。
- モードスイッチをすばやく続けて押した場合、最初に押した分のみ受け付けられます。

要 点

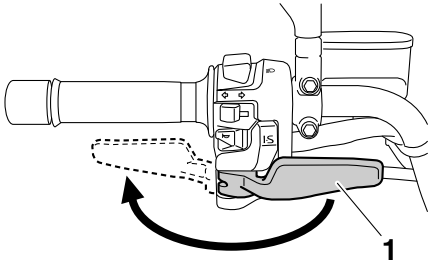
操作の詳細については 4-3 ページを参照してください。

4

JAU12962

リヤブレーキロックレバー

エンジンを始動するとき、料金所などでの一時停車のとき、両手を離した状態で車両を停車するときなどに使用します。
リヤブレーキロックレバーを左方向へ倒すと後輪がロックされます。
リヤブレーキロックの解除は、リヤブレーキロックレバーを右方向へ戻します。



1. リヤブレーキロックレバー

JWA12500

⚠警 告

リヤブレーキロックレバーは走行中絶対に使用しないでください。走行中に作動させると安定性を損なう場合があります。

JCA13050

注 意

確実にリヤホイールの回転が止まった状態で、リヤブレーキロックレバーを使用してください。

要 点

リヤブレーキロックをよりきかせたいときは、リヤブレーキレバーを握りながらリヤブレーキロックレバーを使用してください。

JAU44100

フューエルタンクキャップ

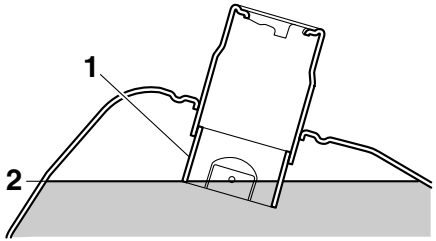
JWA12171

⚠警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実**

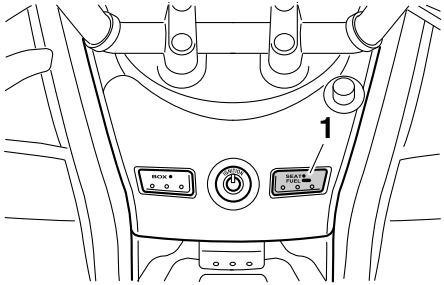
に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた

1. スマートキーがアンロックの状態で、作動範囲内に入ります。
2. 車の電源が OFF の状態で、シートオープンスイッチを長押し（1 秒以上）します。

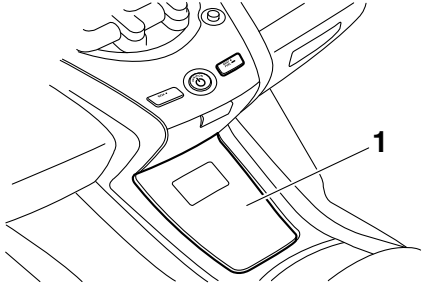


1. シートオープンスイッチ

要　点

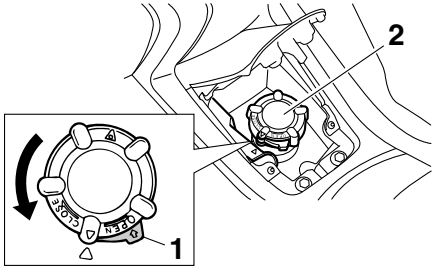
電源が ON の状態では、フューエルリッドを開けることができません。（エマージェンシーモードで電源を ON にしたときを除く）

3. スマートキーが認証されると、フューエルリッドのロックが解除され、自動的にリッドが開きます。このとき、アンサーバック動作（全ての方向指示器が 2 回点滅します）を行います。



1. フューエルリッド

4. ロック解除ボタンを押したまま反時計方向に回して、フューエルタンクキャップを取り外します。



1. ロック解除ボタン
2. フューエルタンクキャップ

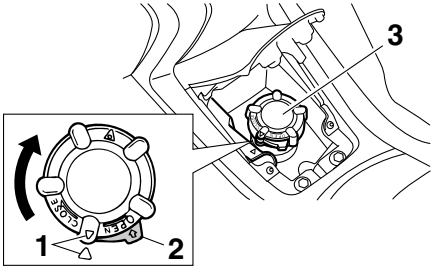
4

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. フューエルタンクキャップをタンクの開け口に挿入し、時計方向に回します。

要　点

キャップ側と車体側の合マークがあう位置まで回してください。正しくロックされるとロック解除ボタンが飛び出します。



1. 合マーク
2. ロック解除ボタン
3. フューエルタンクキャップ

2. フューエルリッドを閉めます。

JAU31460

燃料

JAU28311

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 12.0 L

JCA12511

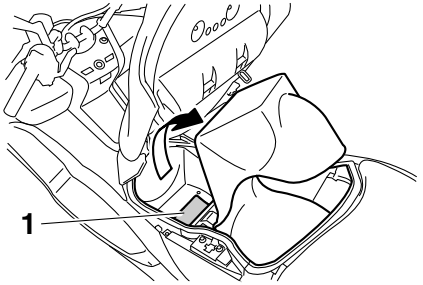
注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU44110

書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、サービスツールの上に保管してください。



1. 書類入れ

JAU44122

トランク

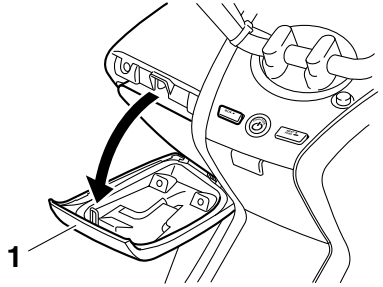
JWA14770

⚠警 告

以下の荷重制限を越えないでください。
- **フロントトランク A：2 kg**
- **フロントトランク C：1 kg**
- **リヤトランク：10 kg**

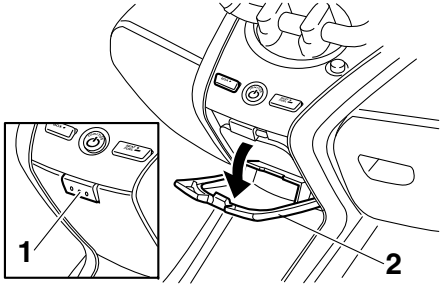
フロントトランク A

フロントトランク A の開閉のしかたは 3-14 ページを参照してください。



1. トランクリッド

フロントトランク B



1. オープンボタン
2. トランクリッド

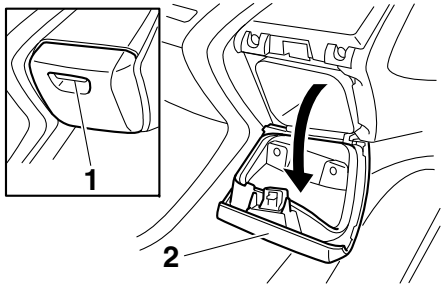
オープンボタンを押すとリッドが手前に開きます。
閉めるときは、リッドを元の位置に戻します。

JWA12210

⚠警 告

フロントトランク B には重いものは収納しないでください。

フロントトランク C

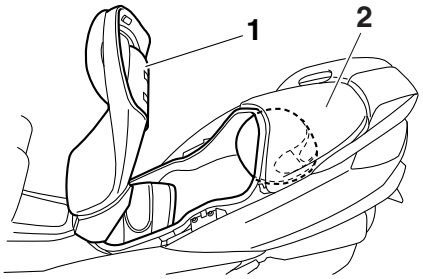


1. レバー
2. トランクリッド

レバーを上にスライドさせ手前に引いて開けます。
閉めるときは、リッドを元の位置に戻します。

リヤトランク

ライダーシート、タンデムシートを開けるとリヤトランクがあります。（3-11 ページ参照）ヘルメットを 2 個収納できます。
シートを開けるとトランク照明灯が点灯します。トランク照明灯はメインスイッチに関係なく点灯し、シートが開いている間は点灯します。



1. ライダーシート
2. タンデムシート

JCA15962

注 意

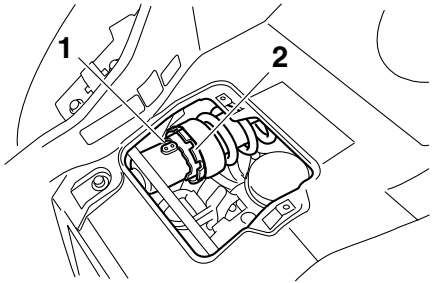
- **シートは長時間開けたままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。**
- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。**

要 点

- 車から離れるときは必ずシートをロックしてください。
- リヤトランク内やフロントトランク A 内は、スマートキーの作動範囲外となります。リヤトランク内やフロントトランク A 内にスマートキーを入れた状態でロックした場合、スマートキーが閉じ込められ、スマートキーシステムを使用できなくなる可能性があります。スマートキーは必ず、運転者が携帯してください。
- スマートキーやメカニカルキー、ID タグをリヤトランク内に入れないでください。スマートキーやメカニカルキー、ID タグを閉じ込めてしまうおそれがあります。また、スマートキーシステムが正常に作動しなくなることがあります。
- リヤトランクには XL サイズのフルフェイスヘルメットが 2 個収納可能ですが、形状によっては入らないものもあります。
- シートを閉めたら、シートがロックされているか走行前に確認してください。

JAU44211

リヤクッションの調整



1. インジケーター
2. アジャスター

リヤクッションにはスプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JCA11910

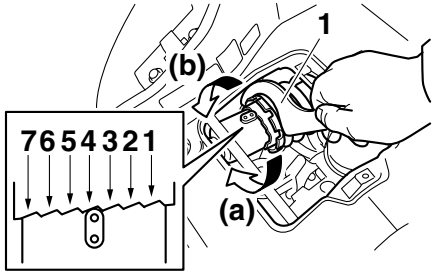
注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロードの調整は以下のように行います。

1. カバー C を取り外します。(7-2 ページ参照)
2. スプリングプリロードを大きくし、サスペンションをハードにするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリン

グプリロードを小さくし、サスペンションをソフトにするには、アジャスターを (b) 方向に回します。



1. スプリングプリロード調整ツール

要　点

- サービスツール内のスプリングプリロード調整ツールを使って調整を行います。
- アジャスターの溝を、リヤクッションのインジケーターに合わせます。

スプリングプリロード：
最大（ハード）：
7 段
標準：
4 段
最小（ソフト）：
1 段

3. カバー C を取り付けます。

JWA11521

⚠ 警 告

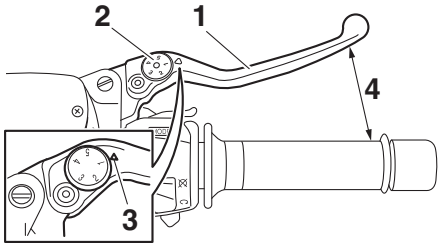
リヤクッションユニットは高圧の窒素ガスを含んでいますので下記のことを厳守してください。

- **分解しない。**
- **火気の中に投げ込まない。**
- **廃棄するには、ガス抜きが必要です。必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。**

JAU46201

ブレーキレバーの握り調整

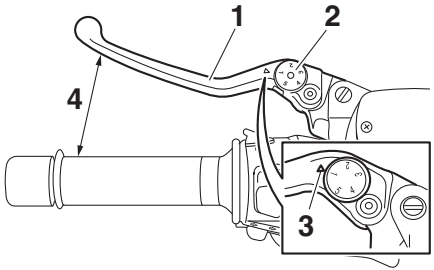
手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。
＜フロントブレーキ＞



1. フロントブレーキレバー
2. グリップアジャスター
3. “△” マーク
4. 握り幅

4

<リヤブレーキ>



1. リヤブレーキレバー
2. グリップアジャスター
3. “△” マーク
4. 握り幅

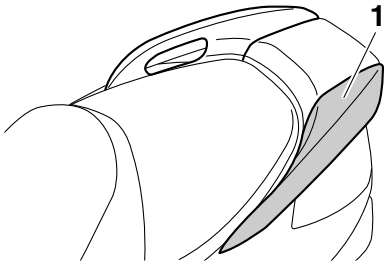
要　点

アジャスターの数字と “△” マークを、必ず合わせてください。

JAU29910

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。



1. スタンディングハンドル

JAU15305

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10241

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU50980

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む）には次の機能があります。

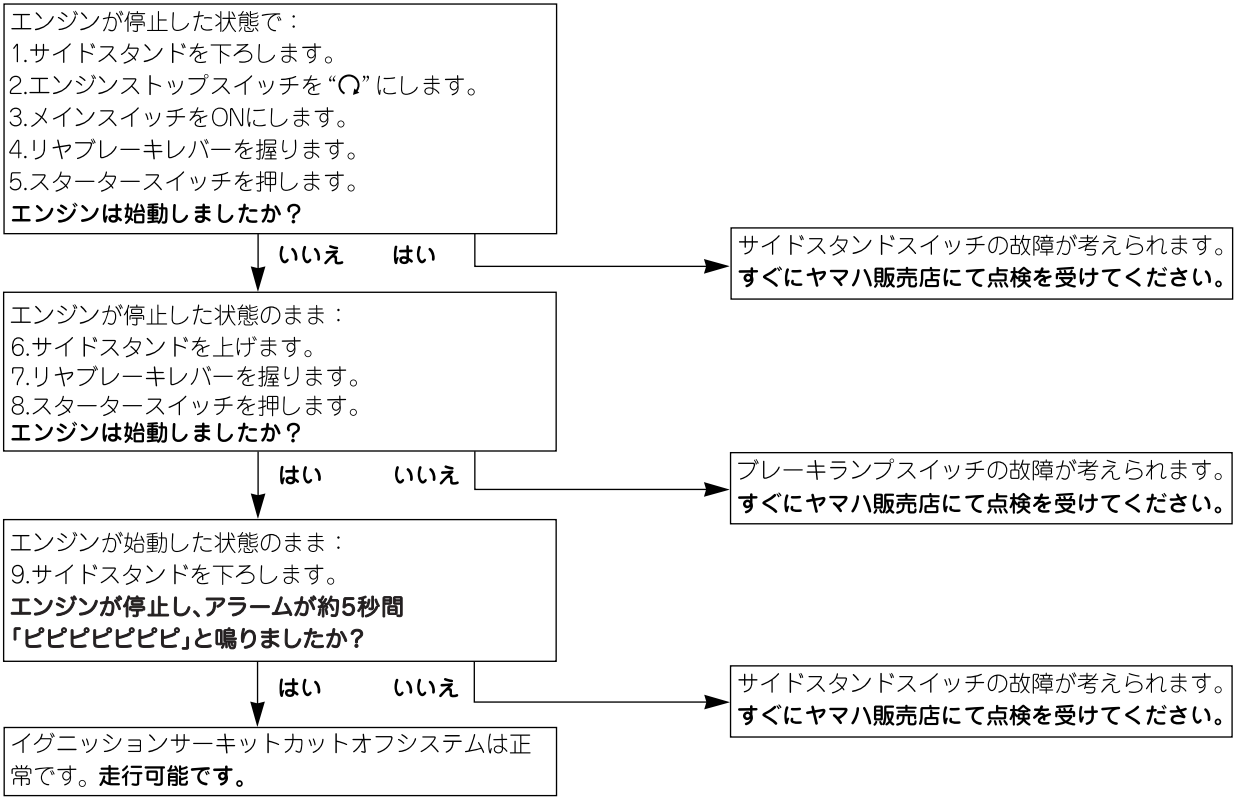
- サイドスタンドが上がっているが、どちらかのブレーキレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げるとエンジンが停止し、アラームが約 5 秒間「ピピピピピピ」と鳴ります。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11540

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。


エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.エンジンストップスイッチを“ ”にします。
3.メインスイッチをONにします。
4.リヤブレーキレバーを握ります。
5.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
いいえ
はい
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.リヤブレーキレバーを握ります。
8.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンが停止し、アラームが約5秒間
「ピピピピピピピ」と鳴りましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

JAU15596

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で日常点検を行うことが義務づけられています。
運転する前に必ず実施してください。

JWA12031

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30172

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのきくが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11732

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU48020

要　点

この車は、メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、マルチファンクションディスプレイにエラーコード30を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード 30 も表示されなくなります。

JAU44133

エンジン始動

JWA14780

⚠警 告

- **エンジンを始動するときは、4-20 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。**
- **走行中はメインスイッチ操作をしないでください。**
- **車が動いているときには、エンジン始動の操作をしないでください。**

JCA11920

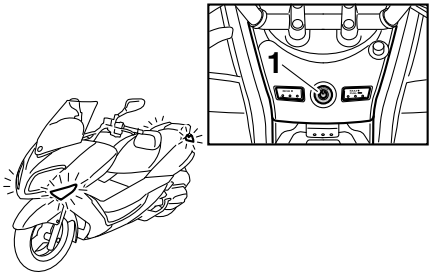
注 意

初めて車両を運転する前に、6-5 ページのならし運転のしかたを参照してください。

要　点

- サイドスタンドをおろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。
- スロットルを開けてスタータースイッチを押すと、エンジンがかからない場合があります。

1. アンロックの状態にしたスマートキーを持って、車に近づきます。
2. メインスイッチを短押し（1 秒以内）します。



1. メインスイッチ

3. スマートキーが認証されると、メーターのキー表示灯が点灯し、ハンドルロックが自動的に解除されます。
4. ハンドルロックの解除が完了すると、車の電源が ON になります。このとき、アンサーバック動作（「ピピッ」とアラームが鳴り、全ての方向指示器が 2 回点滅します）を行います。
5. メインスタンドを立てます。
6. リヤブレーキロックレバーで後輪をロックします。

7. エンジンストップスイッチが “ ” にセットされていることを確認します。
8. スロットルを完全に閉じます。
9. リヤブレーキレバーをしっかり握り、スタータースイッチを押して、エンジンを始動させます。

要　点

- アンサーバック動作が終わってから、スタータースイッチを押してください。
- スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。
- 転倒などで車体が横倒しになった後に始動するときは、メインスイッチを一旦 OFF にし、再度 ON にしてから始動してください。
- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠になってガソリンを補給した後などにエンジンが始動しにくいことがあります。このようなときは、スタータースイッチをいつもより長めに押してください。

JCA16660

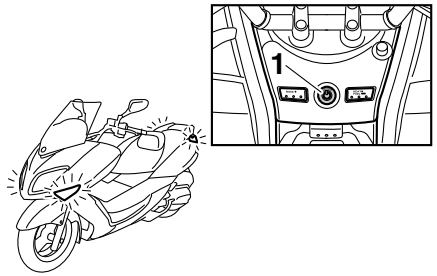
注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU44142

エンジン停止

メインスイッチを押す（短押しまたは長押し）ことにより、車の電源が OFF になってエンジンが停止します。このとき、アンサーバック動作（「ピッ」とアラームが鳴り、全ての方向指示器が 1 回点滅します）を行います。



1. メインスイッチ

要　点

- 電源を OFF する操作は必ず運転者自身の手で行い、操作後、電源が OFF になったことを確認してください。
- スマートキーを持った運転者がスマートキーシステムの作動範囲外に移動しても、車の電源は自動的にOFFにはなりません。
- 走行中は、電源をOFFにする操作を行うこ

とができません。電源を OFF にする操作を行うときは、必ず車を安全な場所に停車して行ってください。走行中にやむを得ずエンジンを停止させるときは、エンジンストップスイッチを使用してください。

- 車の電源を OFF にする操作時に作動範囲内にスマートキーがないと、車の電源は OFF にならずにメーターのキー表示灯が点滅して異常を知らせます。スマートキーの所在を確認してください。
- スマートキーが無くても、メーターのキー表示灯が点滅している間にもう一度電源 OFF の操作を行えば、電源の OFF は可能です。
- スマートキーが無い状態で電源をONにする操作については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JAU44150

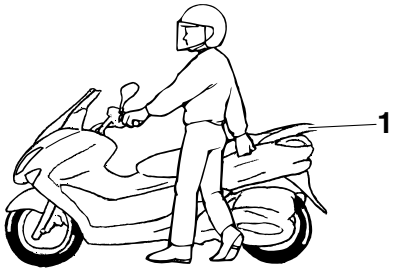
発進

JWA12260

⚠警 告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



1. スタンディングハンドル

JWA12270

⚠警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. リヤブレーキロックレバーを解除します。
4. 方向指示器スイッチを右側に入れ発進の合図をします。
5. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12280

⚠警 告

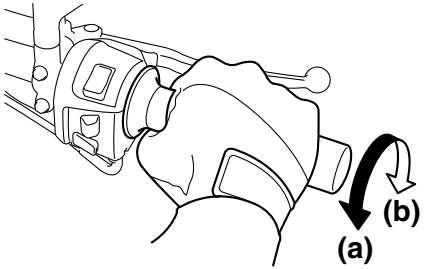
スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

6. 方向指示器を消灯します。

JAU44160

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉めたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



JWA14790

⚠警 告

アイドリング状態のまま長い坂を下って車速が上昇すると、スロットルを開けていなくても自動的にクラッチがつながります。

JCA12680

注 意

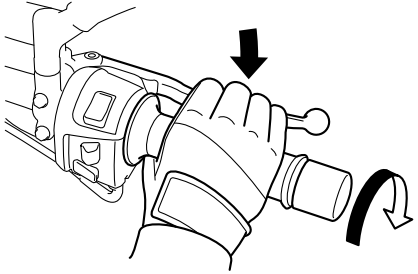
上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

JAU16793

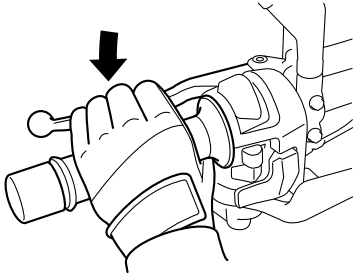
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11572

⚠警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特に**

どちらか一方に傾いている時）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

JAU31470

ならし運転

JAU27662

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5000 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU44171

駐車

駐車するときは、車の電源を OFF にしてエンジンを止め、運転者はスマートキーを持って車から離れてください。
また盗難予防のため、ハンドルロックをかけることをおすすめします。

JWA11581

⚠ 警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29837

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、運転する前に実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12054

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15460

⚠警 告

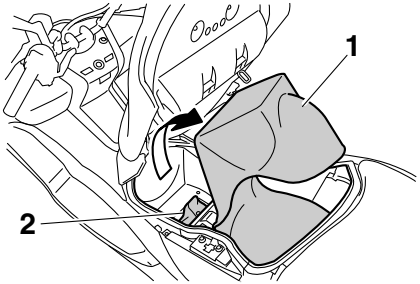
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU17502

サービスツール



1. トランクマット
2. サービスツール

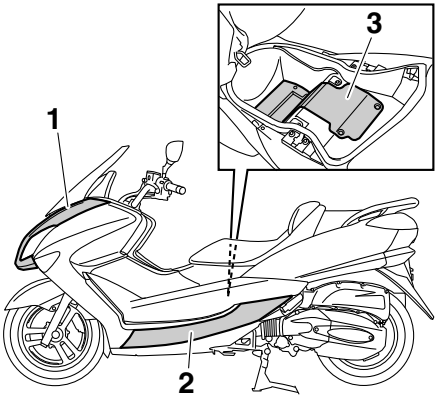
サービスツールはリヤトランクの中にあります。(3-11 ページ参照)
リヤトランクのマットを引き上げ、サービスツールを取り出します。

7

JAU18751

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



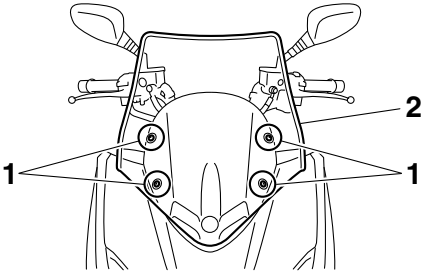
1. カバー A
2. カバー B
3. カバー C

JAU44200

カバー A

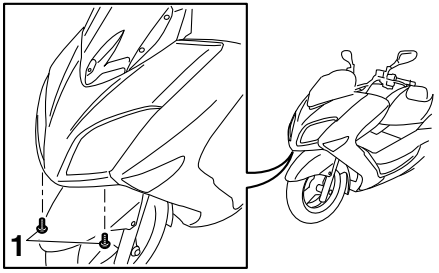
<u>カバーの取り外しかた</u>

1. スクリューを取り外し、ウインドシールドを取り外します。



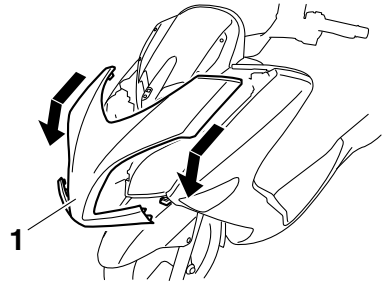
1. スクリュー
2. ウインドシールド

2. スクリューを取り外します。



1. スクリュー

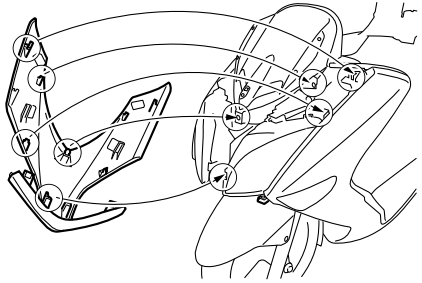
3. カバーを手前に引き出し、下向きに取り外します。

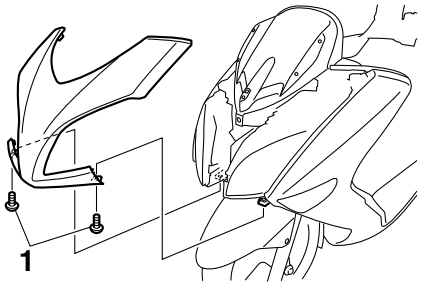


1. カバー A

カバーの取り付けかた

1. カバーを図のように元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。





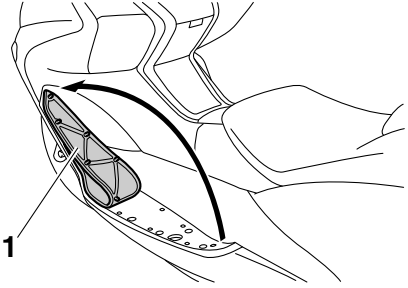
1. スクリュー

2. ウインドシールドを元に戻し、スクリューを締め付けます。

カバー B

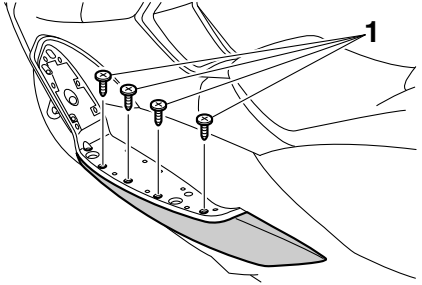
カバーの取り外しかた

1. フロアボードマット（左）をめくります。



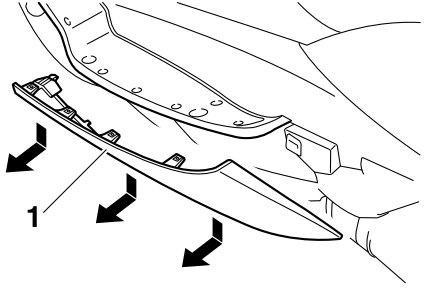
1. フロアボードマット（左）

2. スクリューを取り外します。



1. スクリュー

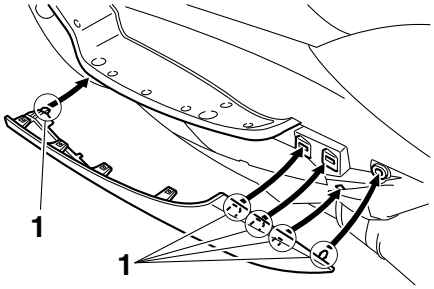
3. カバーを下に引きながら、手前に引き出して取り外します。



1. カバー B

カバーの取り付けかた

1. カバーのツメを図のように入れてカバーを取り付けます。



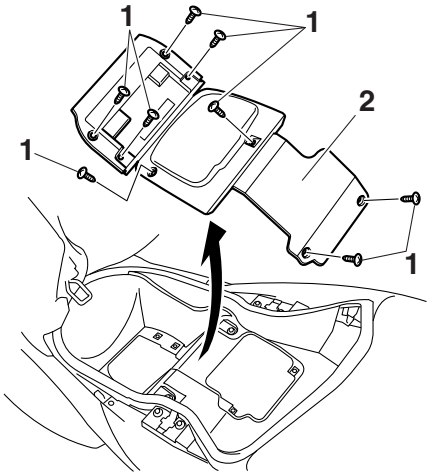
1. ツメ

2. スクリューを締め付けます。
3. フロアボードマット（左）を元に戻します。

カバー C

<u>カバーの取り外しかた</u>

1. ライダーシートとタンデムシートを開けます。(3-11 ページ参照)
2. リヤトランクのマットを引き上げ、スクリューを取り外し、カバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー C

<u>カバーの取り付けかた</u>

1. カバーを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。
2. リヤトランクのマットを元に戻し、タンデムシートとライダーシートを閉じます。

JAU30302

エンジンオイル

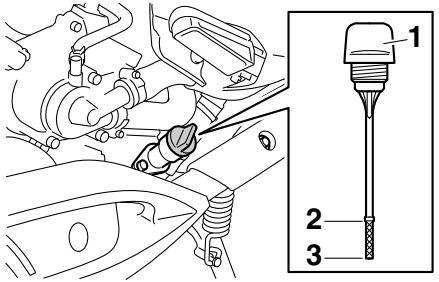
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを２～３分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立てます。(車を垂直にする) ２～３分後、オイルが安定してからオイルレベルゲージを外します。レベルゲージ部をきれいにふいてオイル注入口に (ねじ込まないで) 差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。



1. オイルレベルゲージ
2. フルレベル
3. ロアレベル

要　点

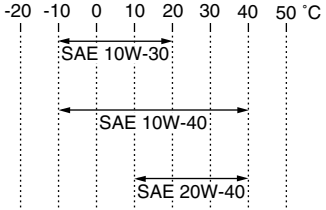
オイル量がフルレベルとロアレベルの間にあれば適切です。

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。
4. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、確実に締めます。

＜推奨エンジンオイル＞

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル ヤマルーブプレミアム	10W–40	MA
ヤマハ純正オイル ヤマルーブスポーツ	10W–40	MA
ヤマハ純正オイル ヤマルーブベーシック	20W–40 または 10W–30	MA

エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



JAU44181

エンジンオイルの交換時期

初 回：
　1か月点検時または 1000km 走行時
2回目以降：
　5000km走行ごとまたは1年ごと
定期交換時オイル量：
　オイルフィルターエレメント無交換時：1.50 L
　オイルフィルターエレメント交換時：1.70 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターエレメントの交換時期

初 回：
　1か月点検時または 1000km 走行時
2回目以降：
　15000km 走行ごと

JWA11860

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12260

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

要　点

- エンジンオイル交換表示“OIL”は回路の確認のため、走行距離に関係なくメインス

7

イッチを ON にすると約 1 秒間表示されます。

- エンジンオイル交換表示“OIL”が点滅したときは、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、リセット操作をしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。（4-6 ページ参照）

JAU30663

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000km 走行時
2 回目以降：
10000km 走行ごと
定期交換時オイル量：
0.23 L
推奨オイル：
ヤマルーブ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU30690

エンジンのかかり具合、異音の点検

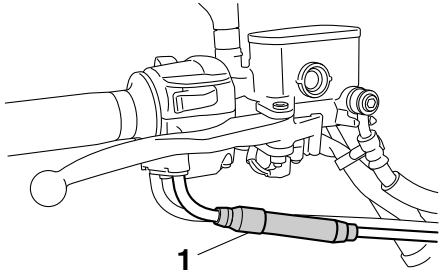
エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44192

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。



1. ゴムカバー

JWA15530

⚠ 警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20070

冷却水

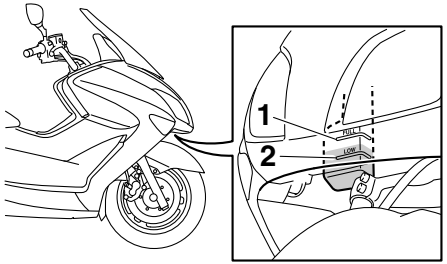
JAU30722

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. フルレベル
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30802

冷却水のつくりかた

ヤマハ純正ロングライフクーラントと水道

水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11881

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12110

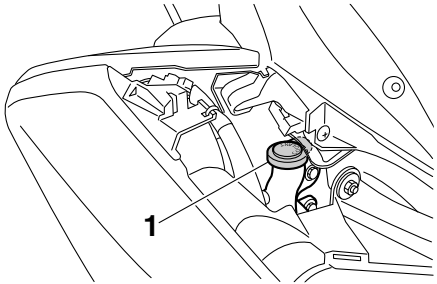
注 意

補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30841

冷却水の補充

1. カバー A を取り外します。（7-2 ページ参照）
2. リカバリータンクキャップを開け、冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

3. カバー A を取り付けます。

JCA12120

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

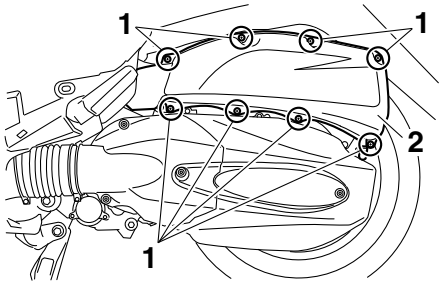
JAU44220

エアクリーナーエレメント、V ベルトフィルターエレメント

エアクリーナーエレメントは 20000km 走行ごとに交換してください。V ベルトフィルターエレメントは 10000km 走行ごとに点検、清掃してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、上記よりも短い距離で、交換または点検、清掃を行ってください。

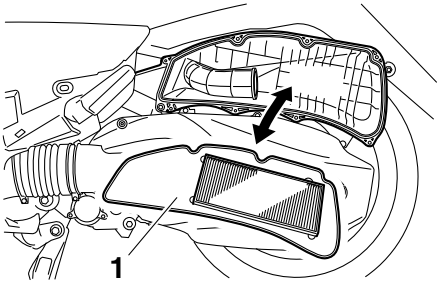
エアクリーナーエレメントの交換

1. メインスタンドを立てます。
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー

3. エアクリーナーエレメントを取り外します。



1. エアクリーナーエレメント

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

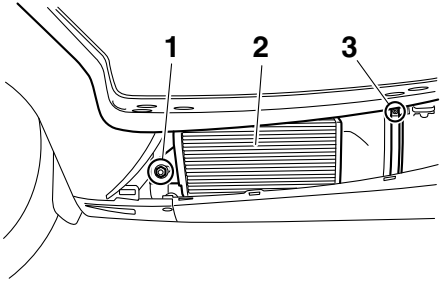
JCA11950

注 意

- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

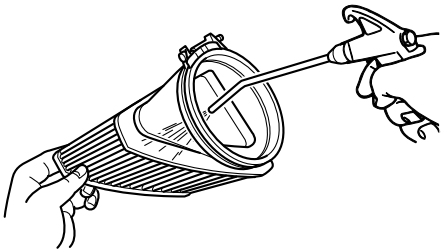
V ベルトフィルターエレメント A の清掃

1. カバー B を取り外します。(7-2 ページ参照)
2. スクリューを外します。
3. クランプスクリューをゆるめ、V ベルトフィルターエレメント A を取り外します。



1. スクリュー
2. V ベルトフィルターエレメント A
3. クランプスクリュー

4. V ベルトフィルターエレメントAを軽くたたいてゴミやほこりを落とし、エアを図のように吹きつけて清掃します。



5. V ベルトフィルターエレメントAの損傷を点検します。損傷している場合は交換します。
6. V ベルトフィルターエレメントAを取り付け、クランプスクリューを締め付けます。
7. スクリューを締め付けます。

JCA15980

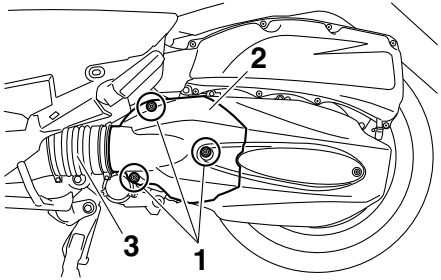
注 意

V ベルトフィルターエレメント A は、確実に装着してください。

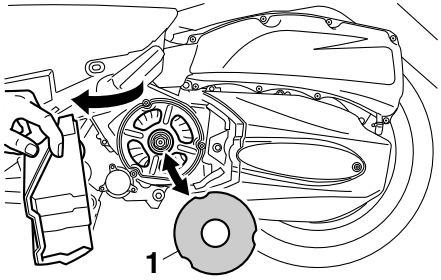
8. カバー B を取り付けます。

V ベルトフィルターエレメント B の清掃

1. ボルトを外して V ベルトフィルターケースカバーを図のように開き、V ベルトフィルターエレメント B を取り外します。



1. ボルト
2. V ベルトフィルターケースカバー
3. ダクト



1. V ベルトフィルターエレメント B

2. V ベルトフィルターエレメントBを軽くたたいてゴミやほこりを落とし、エアを吹きつけて清掃します。
3. V ベルトフィルターエレメントBの損傷を点検します。損傷している場合は交換します。
4. V ベルトフィルターエレメントBを元の位置に取り付けます。
5. V ベルトフィルターケースカバーを元の位置に戻し、ボルトを締め付けます。

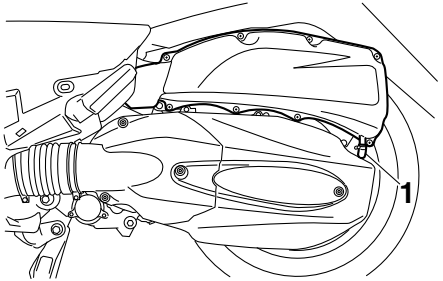
JCA15970

注 意

- **V ベルトフィルターエレメント B は、確実に装着してください。**
- **10000km ごとに V ベルトフィルターケースカバーのダクト部分に亀裂がないかを確認してください。**

ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。

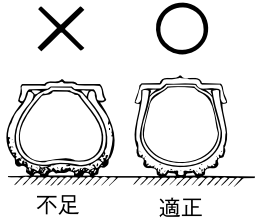


1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース

2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

JAU31025

タイヤ
空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

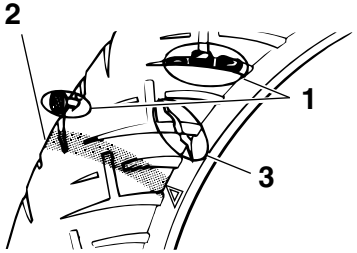
タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
高速走行（1 名乗車）：
前輪：
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
高速走行（2 名乗車）：
前輪：
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28641

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28700

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28774

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11913

⚠警 告

● タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。

● 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。

● タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：
前輪：
110/90-13M/C 55P
後輪：
140/70-12 65L

指定タイヤ：
前輪：
IRC/SS540F
PIRELLI/GTS23
後輪：
IRC/SS540R
PIRELLI/GTS24

JAU29160

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。

JWA11750

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU34990

リヤブレーキロックのきき具合

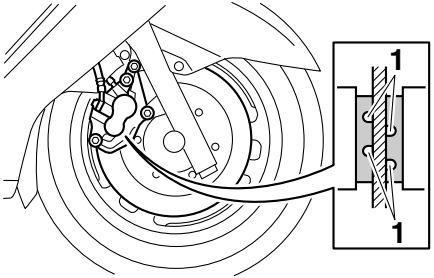
リヤブレーキロックをかけ、車を押してリヤブレーキロックのききが充分であるか点検します。リヤブレーキロックのききが不充分なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29610

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞



1. インジケーター溝

ブレーキパッドのインジケーター溝がなくなったら交換してください。

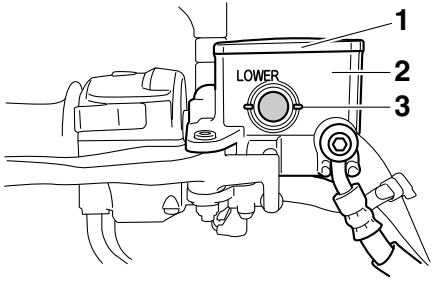
＜リヤブレーキ＞

リヤブレーキパッドの摩耗の点検は、ヤマハ販売店でお受けください。

JAU44231

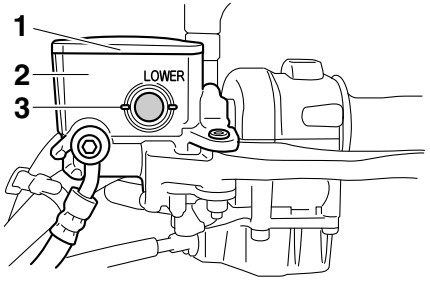
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. マスターシリンダーキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. マスターシリンダーキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

7

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

JWA12150

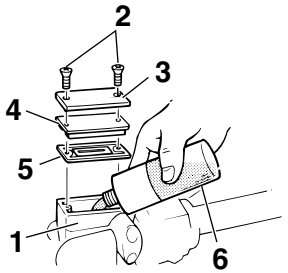
⚠ 警 告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU31193

ブレーキ液の補給

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め付けます。



1. マスターシリンダー
2. スクリュー
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
6. ブレーキ液

指定ブレーキ液：
ヤマハ純正ブレーキフルード
BF－4（DOT－4）

JWA12071

⚠ 警 告

- **ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

JCA12330

注 意

- **ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。**
- **ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム**

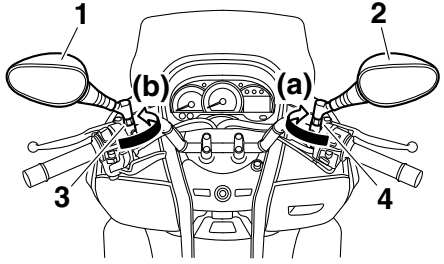
類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU43561

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28620

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28761

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11810

⚠警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12141

注 意

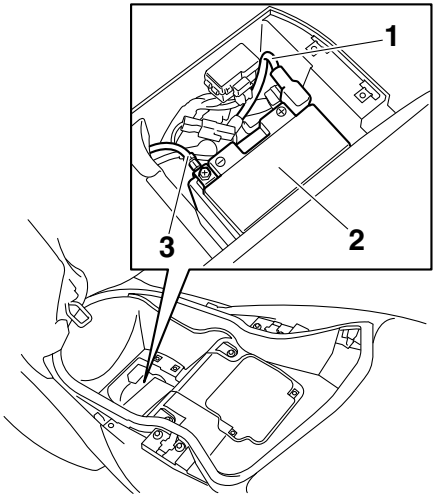
- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU44241

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. カバー C を取り外します。（7-2 ページ

参照）
3. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. +リード線
2. バッテリー
3. −リード線

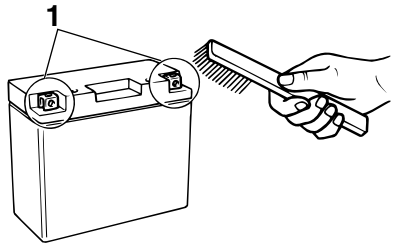
バッテリーの取り付け
取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要　点

バッテリーを取り外して再接続した場合、メインスイッチをONにしてエンジンを始動する前に、システムの関係から自動的に電源がOFF になることがあります。このようなときは、再度メインスイッチを ON にしてからエンジンを始動してください。

JAU29410

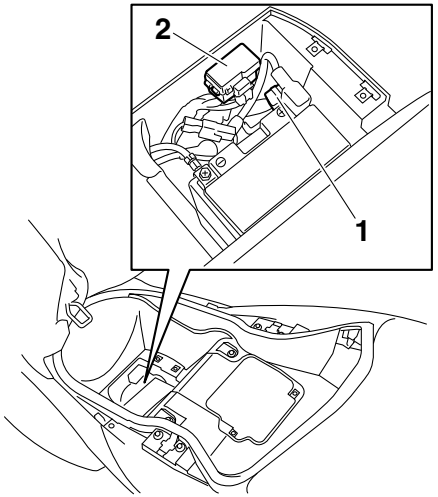
ターミナル部の清掃
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

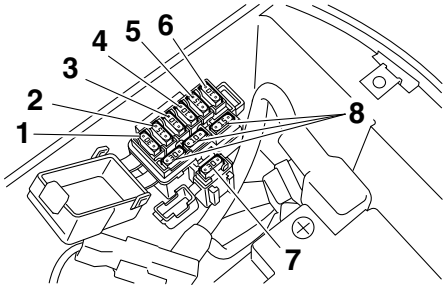
JAU44261

ヒューズ交換
メインヒューズと系統別ヒューズは、カバー C の下側にあります。（7-2 ページ参照）

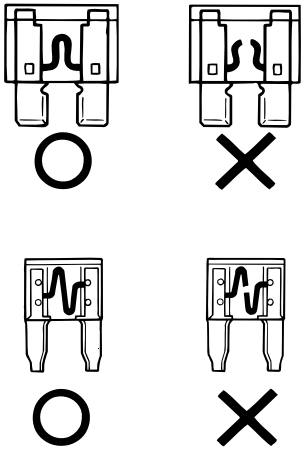


1. メインヒューズ
2. 系統別ヒューズボックス

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。
1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



1. ヘッドライトヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. イグニッションヒューズ
4. ラジエターファンヒューズ
5. バックアップヒューズ
6. フューエルインジェクションヒューズ
7. YCC-AT モーターヒューズ
8. スペアヒューズ



規定ヒューズ：

メイン：
50.0 A
イグニッション：
10.0 A
シグナル：
15.0 A
ヘッドライト：
30.0 A
YCC-AT モーター：
30.0 A
ラジエターファン：
10.0 A
フューエルインジェクション：
10.0 A
バックアップ：
15.0 A

JCA12861

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ**

以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29442

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-17 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12061

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（「製品仕様」のページを参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29570

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU44254

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？また、エンジンストップスイッチは“⏀”になっていますか？
2. エンジン警告灯が点灯または点滅していませんか？
3. I-S 表示灯とアシスト表示灯が同時に点滅していませんか？
4. ガソリンはありますか？
   燃料計にてガソリン量を確認してください。
   燃料計の 1 セグメントと燃料警告表示が点滅しているときはフューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
5. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
6. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？
7. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから、6-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？また、エンジンストップスイッチは“⏀”になっていますか？
2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。7-17 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で確認してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. エンジンは始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。7-17 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」のページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA12061

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（「製品仕様」のページを参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジン警告灯が点灯または点滅したときは？

すみやかに安全な場所に車を停車させ、ヤマハ販売店にご相談ください。

走行中に I-S 表示灯とアシスト表示灯が同時に点滅したときは？

YCC-AT の故障が考えられます。故障の状況により、エンジンが始動できない場合や、エンジンが始動できても低速でしか走行できない場合があります。すみやかに安全な場所に車を停車させ、ヤマハ販売店にご相談ください。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の1セグメントと燃料警告表示が点滅しているときはフューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
上記のことを確認してから、6-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。

JCA12530

注 意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

走行中、エンジンオイル交換表示 “OIL” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

推奨エンジンオイル：
ヤマルーブプレミアム
ヤマルーブスポーツ
ヤマルーブベーシック

交換後、リセット操作をするとエンジンオイル交換表示は消灯します。

JCA12310

注 意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

スマートキーシステムが作動しないときは？

スマートキーシステムが作動しないときは、次の項目を確認してください。

- スマートキーがロックの状態になっていませんか？3-4 ページを参照して、スマートキーをアンロックの状態に切り替えてください。
- スマートキーの電池が消耗していませんか？システムをONする時にキー表示灯が約 20 秒点滅したときは、電池を交換してください。（3-5 ページ参照）
- 強い電波やノイズのある場所などで使用していませんか？スマートキーシステムは微弱な電波を使用しています。スマートキーシステムの作動を妨げる具体的な例については 3-1 ページを参照してください。
- スマートキーに電池が入っていない、または電池が正しく取り付けられていない状態ではないですか？電池の取り付け状態を確認してください。（3-5 ページ参照）
- 車に登録されている、専用のスマートキーを使用していますか？車に登録された専用のスマートキーを使用しないと、スマートキーシステムは作動しません。登録されている、専用のスマートキーを使用してください。
- 壊れたスマートキーを使用していませんか？ 3-2 ページを参照してください。壊れたスマートキーを使用した場合、スマートキーシステムは作動しません。
- バッテリーがあがっていませんか？バッテリーの電圧が低下しているか、バッテリーがあがっていると通信不良の原因になったり、アンサーバック機能が働かなくなることがあります。バッテリーを充電するか、交換してください。スマートキーシステムが作動しないときのバッテリー交換方法については、3-6 ページを参照してください。

以上のことを確認してもスマートキーシステムが作動しない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。
メカニカルキーを使用してエンジンを始動する方法については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。
メカニカルキーを使用してシートやフロントトランクAのロックを解除する方法につい

ては、3-6 ページを参照してください。

エンジンが停止し、「ピピピピピピピ」とアラームが鳴ったときは？

故障ではありません。

エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止し、上記のアラームが約 5 秒間鳴ります。

JCA17440

注 意

サイドスタンドを出してエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。

要　点

上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU44012

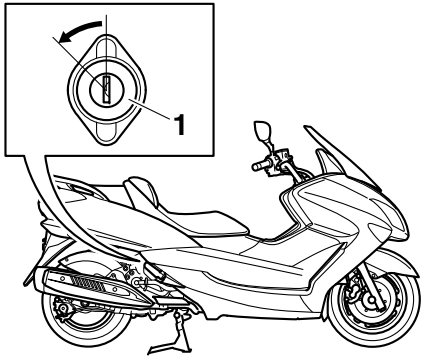
スマートキーシステムのエマージェンシーモード

スマートキーを紛失したとき、またはスマートキーの電池切れや故障などでスマートキーが使用できないときに、このモードの操作を行うことでスマートキーシステムをONにすることができます。

要　点

- 各操作を行うとき、それぞれの操作で決められた時間内に操作を終了しないと、エマージェンシーモードの操作を中止します。
- エマージェンシーモード中にメインスイッチをOFFにすると、エマージェンシーモードが解除されます。

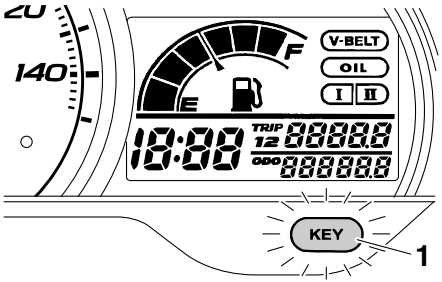
1. 車を安全な場所に停車させます。
2. 車両右横の後方から見えるキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、押しながら反時計方向へ回すことによって、シートロックを解除します。



1. キーシリンダー

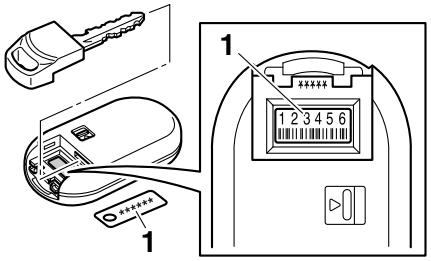
3. ライダーシートおよびタンデムシートを開けます。このとき、トランク照明灯が点灯していることを確認してください。ライダーシートを開けてもトランク照明灯が点灯しないときは、販売店へご相談ください。
4. メインスイッチを短押し（1 秒以内）します。
5. タンデムシートを開けた状態で、トランク照明灯の点灯、消灯を目安にしてライダーシートの上げ下げ（ライダーシートのロックはしない）を 10 秒以内に 3 回以上行います。メーターのキー表示灯が 3 秒間点灯し、エマージェンシーモード

に移行したことを知らせます。



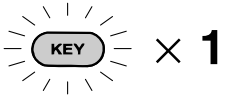
1. キー表示灯 “KEY”

6. キー表示灯消灯後、ハザードスイッチを使ってスマートキーの内側に貼ってあるID（メカニカルキーを抜くと現れます）またはスマートキーのIDタグを参照してIDを入力します。（IDの入力方法は、以下の手順を参照してください）



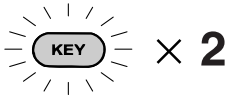
1. ID 番号

7. ID　の入力数値は、ハザードスイッチをONにしたときのキー表示灯の点滅回数を数えて行います。
操作例（ID:123456 を入力するとき）
ハザードスイッチを ON にします。
↓
キー表示灯が点滅を開始します。
↓



× 1

1 回点滅したところでハザードスイッチを OFF にします。
↓
1 番目（ID の左端）の数値「1」が確定します。
↓
再びハザードスイッチを ON にします。
↓



× 2

キー表示灯が 2 回点滅したところでハザードスイッチを OFF にします。
↓
2 番目（ID の左から 2 つ目）の数値「2」が確定します。
↓
以下、6 番目（ID の右端）の数値を確定するまで繰り返します。
下記のどちらかに該当した場合は操作が無効となり、エマージェンシーモードを終了します。このときは、ステップ「4」からやり直してください。

- ID の入力作業中に 10 秒以上、ハザードスイッチの操作が無いとき
- キー表示灯を 10 回以上点滅させたとき

8. 正しい 6 桁の ID を入力すると、キー表示灯が 10 秒間点灯します。
9. キー表示灯が点灯している間にメインス

イッチを短押し（1 秒以内）すると、電源が ON になります。

要　点

- 入力した ID が間違っていた場合はキー表示灯が 3 秒間速い点滅をし、エマージェンシーモードを終了します。このときは、ステップ「4」からやり直してください。
- スマートキーを紛失した場合は、予備のメカニカルキーとスマートキーの ID タグを使って同じ操作を行ってください。このセット（予備のメカニカルキーとスマートキーの ID タグ）があれば、エンジンの始動および新しいスマートキーの登録も可能です。新しいスマートキーの登録はヤマハ販売店にご相談ください。
- エマージェンシーモードで電源をONにしたときは、フューエルリッドのロックを解除することができます。

JAU35122

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

JCA13082

注 意

お車によってはマット塗装（ツヤ消し塗装）が施されています。お車の手入れの前にヤマハ販売店で、どのようなアフターケア用品を使用したら良いか、ご相談することをおすすめします。また、マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。ふき残しなどにより、外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**
- **マット塗装部分の補修が必要な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。**

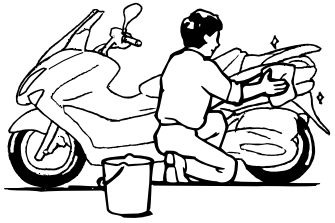
JAU27975

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：
ユニコンカークリーム



JWA11930

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12213

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入っ**

8

たワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU27990

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11950

⚠警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12220

注 意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU28050

ウインドシールドの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11980

⚠警 告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12230

注 意

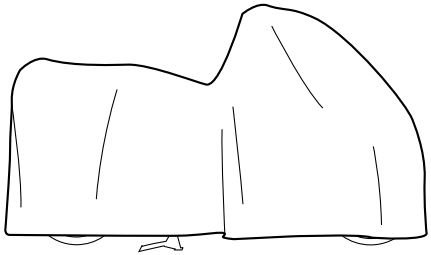
- **ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。**

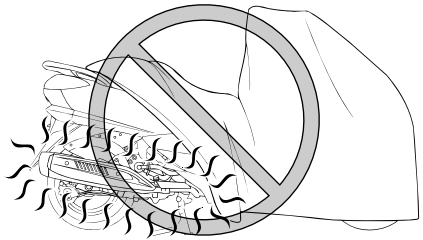
JAU35911

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13110

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28081

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28111

ヤマルーブプレミアム

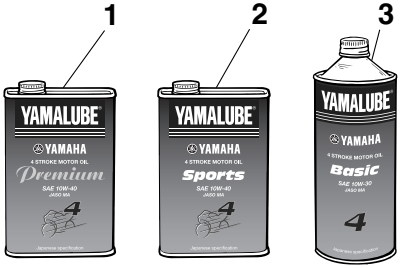
高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

ヤマルーブスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

ヤマルーブベーシック

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。



1. ヤマルーブプレミアム
2. ヤマルーブスポーツ
3. ヤマルーブベーシック

JAU28171

ヤマルーブ ロングライフクーラント

水冷専用。過酷な状況でも安定した冷却効果と優れた防錆、防食力のある不凍液です。



JAU28200

ブレーキフルード BF-4

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。



JAU28271

ヤマルーブ ギヤオイル

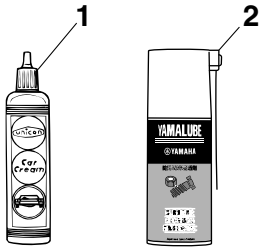
ミッションギヤ潤滑用。極圧性が良く、また油膜強度も高く、酸化安定性にすぐれ、ベアリングの腐食や摩耗を防ぐアワ立ち性がきわめて少ない特性をもっています。



JAU28361

ユニコンカークリーム（ワックス）
塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

ヤマルーブ 防錆潤滑浸透剤
防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。



1. ユニコンカークリーム
2. ヤマルーブ 防錆潤滑浸透剤

製品仕様

寸法：

全長：
2175 mm
全幅：
770 mm
全高：
1185 mm
シート高：
700 mm
軸間距離：
1550 mm
最低地上高：
110 mm

重量：

車両重量：
188 kg
分布荷重（前）：
78 kg
分布荷重（後）：
110 kg
車両総重量：
298 kg
分布荷重（前）：
102 kg
分布荷重（後）：
196 kg

乗車定員：
2 名

性能：

定地燃費（国土交通省届出値）：
38.0 km/L/60 km/h
最小回転半径：
2700 mm
最高出力：
14 kW@6500 r/min
(19 PS@6500 r/min)
最大トルク：
22 Nm@5000 r/min
(2.2 kgf-m@5000 r/min)

エンジン：

原動機種類：
4 ストローク水冷 SOHC
気筒数・配列：
単気筒
総排気量：
249 cm^3
内径 x 行程：
68.0 × 68.6 mm
圧縮比：
10.80 : 1
エアフィルターエレメント：
湿式ろ紙

クラッチ形式：
乾式内拡重錘式
変速機形式：
V ベルト式無段変速
始動方式：
セル式

車体：

フレーム形式：
バックボーン
キャスター：
27.00 °
トレール：
106 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：
40.0 °
ハンドル切れ角（右）：
40.0 °

燃料：

フューエルタンク容量：
12.0 L

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ

リヤブレーキ：

ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ

懸架方式 :
種類（前）:
テレスコピック
種類（後）:
ユニットスイング
緩衝方式 :
ショックアブソーバータイプ（前）:
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ（後）:
コイルスプリング / ガスオイルダンパー
フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
110/90-13M/C 55P
メーカー / 銘柄 :
IRC/SS540F
メーカー / 銘柄 :
PIRELLI/GTS23
リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
140/70-12 65L
メーカー / 銘柄 :
IRC/SS540R
メーカー / 銘柄 :
PIRELLI/GTS24
トランスミッション :
1 次減速比 :
1.000
2 次減速比 :
7.325 (46/18 x 43/15)
変速比 :
2.400–0.780 :1
エレクトリカル :
点火方式 :
TCI
ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ
バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
12 V, 55 W × 2 (H7 x 2)
テール / ブレーキランプ :
12 V, 5.0 W/21.0 W × 2
方向指示灯（前）:
12 V, 21.0 W × 2
方向指示灯（後）:
12 V, 21.0 W × 2
番号灯 :
12 V, 5.0 W × 1
メーター灯 :
LED
マーカーランプ :
12 V, 5.0 W × 2
パイロットランプワット数 x 個数 :
方向指示器表示灯 :
LED x 2
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
冷却水温警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED
I-S 表示灯 :
LED
アシスト表示灯 :
LED
キー表示灯 :
LED
エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアム、スポーツ、ベーシック
エンジンオイル量 :
オイルフィルターエレメント無交換時:
1.50 L

オイルフィルターエレメント交換時 :
1.70 L

ファイナルギヤオイル :

指定オイル :
ヤマルーブ ギヤオイル
オイル量 :
0.23 L

クーリングシステム :

リザーブタンク容量（FULL レベル）:
0.25 L
冷却水総容量 :
1.50 L

ケーブルとレバーの遊び :

スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm

フロントディスクブレーキ :

パッド厚さ（内側）:
6.2 mm
使用限度 :
0.8 mm
パッド厚さ（外側）:
6.2 mm
使用限度 :
0.8 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤディスクブレーキ :

パッド厚さ（内側）:
8.0 mm
使用限度 :
0.8 mm
パッド厚さ（外側）:
8.0 mm
使用限度 :
0.8 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

ホイールトラベル :

ホイールトラベル（前）:
100.0 mm
ホイールトラベル（後）:
97.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）:

前輪（1 名乗車）:
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)

高速走行 :
前輪（1 名乗車）:
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)

バッテリー :

バッテリー型式 :
YTZ10S
バッテリー容量 :
12 V, 8.6 Ah

点火タイミング :

点火時期 (B. T. D. C.):
7.0 °/1600 r/min

スパークプラグ :

メーカー / 型式 :
NGK/CPR7EA-9
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm

ヒューズ容量 :

メイン :
50.0 A
ヘッドライト :
30.0 A

9

シグナル :
15.0 A
イグニッション :
10.0 A
ラジエターファン :
10.0 A
YCC-AT モーター :
30.0 A
フューエルインジェクション :
10.0 A
バックアップ :
15.0 A

JAU36640

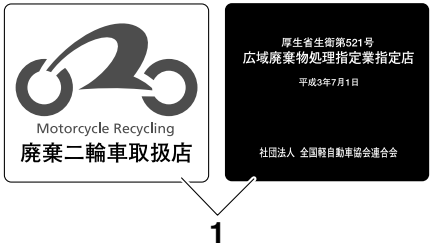
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

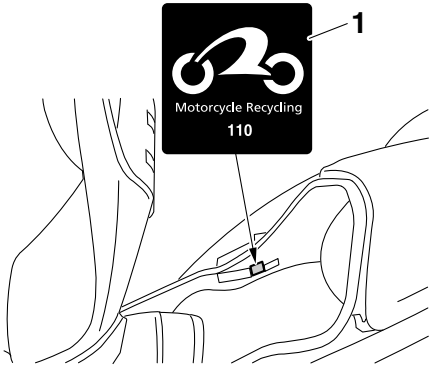
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　０３－３５９８－８０７５
受付時間　９時３０分～１７時００分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU28391

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

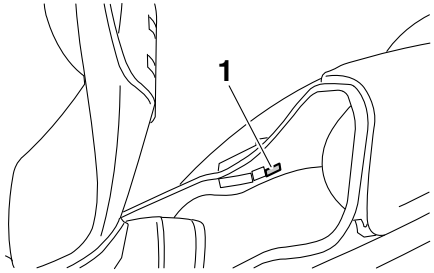
マジェスティ　YP250
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-001-4D9

JAU50491

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、リヤトランク右側に貼り付けてあります。

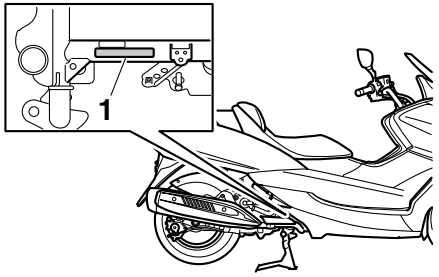


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
マジェスティ　YP250
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50500

車台番号

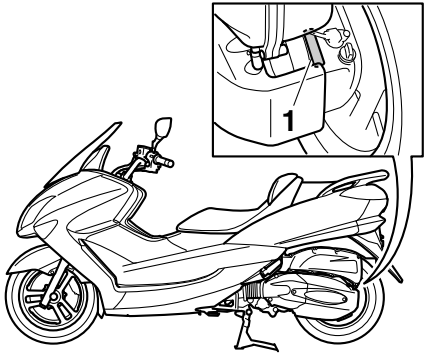


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50510

原動機番号

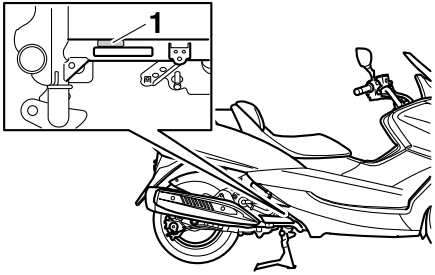


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50520

型式認定番号



1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

あ
I- シフトスイッチ 4-12
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 8-4
い
イグニッションサーキット
カットオフシステム 4-20
う
ウインドシールドの取り扱い 8-3
運行において異常が認められた
箇所の点検 7-19
え
エアクリーナーエレメント、
V ベルトフィルター
エレメント 7-8
エンジンオイル 7-4
エンジン始動 6-1
エンジンストップスイッチ 4-11
エンジン停止 6-2
エンジンのかかり具合、
異音の点検 7-6
か
加速と減速 6-4
型式認定番号 10-3
カバーの取り外し、取り付け 7-2
環境・住民の方との
調和のために 1-6
き
キャストホイールの取り扱い 8-2
く
車の電源 OFF 3-10
け
警告灯と表示灯 4-4
原動機番号 10-3
こ
こんなときは 7-20
さ
サイドスタンド 4-19
サービスツール 7-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介 10-2
し
車体各部の給油脂状態の点検 7-16
車台番号 10-2
車両情報 10-2
書類入れ 4-15
シートの開閉 3-11
す
スタンディングハンドル 4-19
スタータースイッチ 4-11
スピードメーター 4-6
スマートキーおよびメカニカル
キーの取り扱い 3-2
スマートキーシステムの
エマージェンシーモード 7-22
スマートキーシステムの概要 3-1
スマートキーシステムの
作動範囲 3-7
スマートキーの操作のしかた 3-4
スマートキーの電池交換の
しかた 3-5
せ
洗車 8-1
そ
走行モードの切り替え 4-3
た
タイヤ 7-11
タコメーター 4-6
ち
駐車 6-5
て
低速、加速の状態の点検 7-7
点検整備の実施 7-1
と
灯火装置および方向指示灯の
点検 7-19
盗難警報器（オプション） 4-10
トランク 4-16
な
ならし運転 6-5
に
日常点検箇所／点検内容 5-1
日常点検の実施 5-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1
ね
燃料 4-15
は
ハザードスイッチ 4-12
発進 6-3
バックミラー 7-15
バッテリー 7-16
パッシングライトスイッチ 4-10
ハンドルスイッチ 4-10
ハンドルロック解除と
車の電源 ON 3-8

索引

ハンドルロックだけを解除する 3-11
ハンドルロックのかけかた 3-10

ひ

ヒューズ交換 7-17

ふ

ファイナルギヤオイルの
交換時期 7-6
フューエルタンクキャップ 4-13
ブレーキ 6-4
ブレーキ液の補給.....7-14
ブレーキ液量の点検.....7-13
ブレーキパッドの点検.....7-13
ブレーキレバーの遊び、
きき具合の点検.....7-12
ブレーキレバーの握り調整 4-18
フロントトランク A の開閉 3-14

へ

ヘッドライト上下切り替え
スイッチ 4-11

ほ

方向指示器スイッチ.....4-11
保管のしかた 8-3
歩行者と他の車のために 1-5
ホーンスイッチ.....4-11

ま

マルチファンクション
ディスプレイ.....4-6

め

メカニカルキーの使いかた 3-6

も

モデルラベル 10-2
モードスイッチ.....4-12

り

リヤクッションの調整.....4-17
リヤブレーキロックのきき具合 7-13
リヤブレーキロックレバー 4-13

れ

冷却水.....7-7

わ

YCC-AT 制御モードの選択.....4-1
YCC-AT と I- シフトシステムの
作動.....4-2

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-105-4D9

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2011.12-0.7 ×1
(J)